

西九州大学

令和 4 年度 自己点検評価報告書

令和 5 年 5 月
西九州大学 点検・評価運営委員会

目次

1. 企画委員会	2
2. FD委員会	5
3. 大学院FD委員会	6
4. 大学院研究科	7
5. 健康栄養学科	8
6. 社会福祉学科	10
7. スポーツ健康福祉学科	13
8. リハビリテーション学科	15
9. 子ども学科	17
10. 心理カウンセリング学科	20
11. 看護学科	23
12. 全学教務委員会	29
13. 共通教育運営委員会	30
14. 教職課程委員会	31
15. 学生支援委員会	32
16. 入試広報委員会	34
17. 図書館	35
18. リカレント教育・研究推進本部	36
19. 国際交流センター	37
20. 情報メディアセンター	40
21. SD委員会	41
22. 教職センター	42
23. 事務局	43
24. 総合評価	45

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
企画委員会 (学長)	<p>基準1. 使命・目的等 《使命・目的、教育研究》 【1-1 大学ブランドの明確化および変化への対応】 地域に生活する人々の生活を科学し実践する教育機関としてのブランドの確立 ◎大学改革、法令等の改正や、大学に対する社会の要請等の変化に留意しながら、継続的に検証、見直しを行う。大学改革に関しては、令和3年度中に検討の上、方向性を見出す。また、大学に対する社会的要請に応えるため、九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム（QSP）事業を実績の出るかたちで実施する。 ◎各学科の強み・特色を明確化し、志願者増を実現して定員充足を図る。</p> <p>基準2. 学生 《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》 【2-2 学修支援】 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備 ・教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を整備し運営する。</p> <p>基準4. 教員・職員 《教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援》 【4-1 教学マネジメントの機能性】 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮 ・引き続き学長のリーダーシップが発揮できる運営体制を維持する。 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築 ・引き続き組織の役割及び責任を明確にした教学マネジメントを有効的に機能する。 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性 ・引き続き大学の使命・目的に沿った教学マネジメントを行う。</p> <p>【4-2 教員の配置・職能開発等】 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置 ・引き続き、大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、配置する。 ・学内リソースの選択と集中による生産性向上に向けて教員組織の一元化を実現する</p> <p>【4-4 研究支援】 研究環境の整備と適切な運営・管理 ・研究環境及びサポート体制を整備する。</p>	<p>基準1. 使命・目的等 《使命・目的、教育研究》 【1-1 大学ブランドの明確化および変化への対応】 ・健康栄養学科、社会福祉学科、スポーツ健康福祉学科、リハビリテーション学科作業療法学専攻において定員割れをおこしたが、全学では昨年度より 9 名少ない入学者であった。 ・QSP 事業では、健康医療福祉専門委員会の主幹校として一定の役割を果たすことができた。佐賀県と共同で昨年に引き続き「ウォーキングで健康イノベーション」を実施できた。ウォーキング大会に高大連携校の高校生がスタッフとして協力があった。本事業には、佐賀県からの事業委託も受けることができた。 ・大学改革に関しては、デジタル社会共創学環の開設を目指し届出申請での許可をもらい、令和 5 年 5 月末の届出書提出を目指すことになった。</p> <p>基準2. 学生 《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》 【2-2 学修支援】 ・今年度も新型コロナウイルス感染症への配慮として、対面と遠隔での併用にて実施した。ただし、可能な限り対面での実施を主におき、一方で学生への貸与用ノートパソコンも準備し支援した。教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制について検討することはできなかった。</p> <p>基準4. 教員・職員 《教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援》 【4-1 教学マネジメントの機能性】 ・人事評価制度については、令和元年度に従来の制度を抜本的に見直し、大学、短大部、法人本部及び IR 室の教職員を対象として、令和 2 年 4 月 1 日から運用を開始したが、令和 3 年に教育職員の評価方法について見直しを求める意見書により検討され、令和 4 年 12 月の常任理事会で見直し案が承認され令和 5 年 4 月から新たな人事評価制度で再開することになった。 ・健康支援センターの運用に関しては、新型コロナウイルス感染症発生に伴う感染症予防のために、十分な成果を上げることはできなかった。</p> <p>【4-2 教員の配置・職能開発等】 ・退職教員等による専任教員の確保に関しては、大学院、学部双方において手当てすることができたが、一部の学部において欠員を解消することができていない。 ・教員組織の一元化については、継続して検討していく。</p> <p>【4-4 研究支援】 ・学長裁量経費による学内での研究課題募集を行い、8 件の課題が採択された。科研費の応募件数 70 件に対して 28 件</p>	7 6 5 5

	<ul style="list-style-type: none"> 研究に関する教員及び学生の満足度を調査・活用する。 <p>研究活動への資源の配分</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究活動への資源配分に関する規則を検証・見直しを行い改善を行う。 <p>基準5. 経営・管理と財務</p> <p>『経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計』</p> <p>【5-1 経営の規律と誠実性】</p> <p>経営の規律と誠実性の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種法令等を遵守し、管理運営に係る諸規程等を継続的に整備する。 <p>使命・目的の実現への継続的努力</p> <ul style="list-style-type: none"> 中期目標・中期計画に、建学の精神、教育理念を具現化するための事業計画を掲げ、この中期計画に基づき、毎年度アクションプログラムの作成及び総括を行い、使命・目的の実現に努める。 <p>環境保全、人権、安全への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境保全計画を時代の背景に合ったものへ見直しを行い、環境推進委員会等と連携し、環境保全に関する教育を実施する。 学内外に対する危機管理体制を整備し、適切に機能させる。 <p>【5-2 管理運営の円滑化と相互チェック】</p> <p>法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、戦略的な意思決定が行えるよう学内会議等の円滑な運営に努める。 <p>法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人及び大学の各管理運営機関が相互チェックする体制を整備し、適切に機能する。 <p>【5-3 財務基盤と収支】</p> <p>中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4次中期目標・中期計画に基づき、法人本部と連携し、事業計画及び単年度予算編成を行う。 <p>安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学的に学生募集についての継続的な努力を行う。 外部資金の獲得に向けて、文部科学省科学研究費補助金や各種 GP 等への申請件数を増やすなどの努力を継続して行う。 <p>基準6. 内部質保証</p> <p>『組織体制、自己点検・評価、PDCA サイクル』</p> <p>【6-2 内部質保証のための自己点検・評価及び外部への公表】</p> <p>IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> IR 室と連携し、データの収集・分析を行い現状把握に努める。 <p>評価結果の公表</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価結果を学内及び世間に公開し、大学の適切な運営に 	<p>が採択され 40.0% の獲得率であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究に関する満足度調査は実施することができなかった。 <p>基準5. 経営・管理と財務</p> <p>『経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計』</p> <p>【5-1 経営の規律と誠実性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理運営に関する諸規定等の改正を行うことはできなかった。 中期計画に基づく年次アクションプログラムの作成および総括は例年通り進捗させることができた。 環境保全計画および危機管理体制の見直しに関しては、防災備蓄の更新を行うことができた。 <p>【5-2 管理運営の円滑化と相互チェック】</p> <ul style="list-style-type: none"> 常任理事会と大学運営組織との課題共有に努めるため、学内会議において全体的課題を共有することに努めた。 法人および大学各運営期間との間での相互チェック体制整備については継続協議となった。 <p>【5-3 財政基盤と収支】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 3 年度事業計画及び単年度予算編成を予定通り行うことができたが、新型コロナウイルス感染症対策による臨時の出費があり、補正予算での修正を行った。 学生募集に関しては、新型コロナウイルス感染症中で、課題の学生定員の確保のため「オープンキャンパス」が 7・8 月に実施された。公式 SNS での相談やオンラインでの学校見学の実施、学科を動画での紹介など、デジタルトランスフォーメーション (DX) を活用した本学の認知度向上に努めた結果、入学者総数は 500 名を超えたが、依然として健康栄養学部、健康福祉学部、リハビリテーション学部が定員未達であった。 私立大学改革総合支援事業への応募を行った。タイプ 1、タイプ 2、タイプ 3 が採択となった。科研費の採択件数は、前年度を下回った。 <p>基準6. 内部室保証</p> <p>『組織体制、自己点検・評価、PDCA サイクル』</p> <p>【6-2 内部質保証のための自己点検・評価及び外部への公表】</p> <p>IR 室と連携した情報収集に関しては、SWOT 分析など各学部と連携した情報収集に努めた。中退率、卒業率、GPA 分布などに関するデータも収集されている。その具体的活用に関しても各学科で活用状況をまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学評価に関する情報の公開については大学 WEB ページを用いて公開されている。 	6 6 5 7
--	--	---	------------------

	<p>努める。</p> <p>【6-3 内部質保証の機能性】 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCA サイクルの仕組みの確立とその機能性 ・自己点検・評価、外部評価及び設置計画履行状況調査等の結果を活用し、中長期的な計画を踏まえた大学運営に努める。</p> <p>【その他】 ◎学生サービスの向上(施設環境・学習環境整備、学生支援の向上)により、学生第一主義を実現する。 ◎学長・理事長ミッションの具現化をはかる</p>	<p>【6-3 内部質保証の機能性】 ・内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCA サイクルの確立に関して、本学は年次アクションプログラムを順次進捗させることで、それを中期計画に連接させている。次年度も本アクションプログラムを介して PDCA を実行する。</p>	7
		当該委員会 達成度集計	59/100
		達成度平均点	59/100

アクションプログラム令和元年度特記事項として以下を付加する。

- ◎学生サービスの向上(施設環境・学習環境整備、学生支援の向上)により、学生第一主義を実現する。
- 31年度終了を目指し、私立大学研究ブランディング事業の充実展開をはかる。
- 支援最終年度に向けCOC+事業の展開、取りまとめを行う。
- 大学運営にイノベーションを起こし、生産性を向上させて、働き方改革を実現し、快適な職場環境を作る。
- 環境への配慮、災害への備えや情報セキュリティなど危機管理への対応等を整備する。

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
FD委員会 (委員長)	◎教育の質転換に関するFDの実施 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・教学 IR 活動・アクティブラーニングに関する FD をそれ ぞれ 1 回以上実施して全教職員による実効性ある活動として根付かせる。 <ul style="list-style-type: none">・学修到達度の可視化を実現する。	・12/1 (木) ZOOM 併用ハイブリッド方式にて開催し、「西九州大学における過去 5 か年の出願者並びに入学者の傾向分析」と題して株式会社リクルートより、「学生を学修に向かわせる施策と実践例」と題して株式会社ナガセ東進ハイスクールよりそれぞれ解説された。 2/16 (木) ZOOM 併用ハイブリッド方式にて開催し、「メタバースの実証実験から得られた今後の展望」と題して木村情報技術株式会社より、「授業におけるメタバースの活用・実践及びそれに伴う考え方」と題して佐賀龍谷学園教諭よりそれぞれ解説及び事例紹介が行われた。 ・本学において学修到達度の可視化のための自己評価システムはすでに導入されているが、教務委員会にて「学生たちが理解しやすい教育に関する基本方針等の記載に向けて」の検討がなされており、ディプロマ・ポリシーの修正等が段階的に進められている。	8
	◎学生による授業評価 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・授業評価に関する学生の実施率向上を実現する。	・授業評価の実施率向上を目指し、①各教員の全担当科目的授業評価を 2 年間で 1 回実施（年あたりの実施授業数を約半分に減少）する、②授業時間内に実施する、という 2 点を変更して、全学年に対する年 2 回の授業評価を実施した。	8
	○学生の学修実態調査の実施	全学年に對し、年 1 回の学修実態調査アンケートを実施した。	8
	○シラバス作成に関する FD を年 1 回開催する。	・他の項目に力を入れたため R4 年度は未実施であったが、シラバス作成要領配付による周知を実施した。	3
	◎3年間で全教員が遠隔授業の取組みの発表を FD で実施 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・年間複数回の FD により、遠隔授業の教育効果の充実を図ると共に、教材づくりの方法を全学的に共有し、より良い授業を目指す。	・R4 年度は原則対面授業となったことに伴い未実施となつたが、以下の内容についての FD を実施した。 6/2 (木) ZOOM にて「高等教育機関における障害を有する学生の受け入れとその支援—長崎国際大学での取組—」と題して、長崎国際大学教授による講演を開催した。 7/28 (木) ZOOM にて『これからの大学に向けて知りたい「教育情報化」の最新事情—デジタル教材で加速する教育 DX—』と題して、株式会社日経 BP より解説された。	6
	○他大学との FD の実施 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・他大学と合同の FD を複数回実施し、課題・解決策の共有化を図る。	・2/16 (木) 開催の「メタバースの実証実験から得られた今後の展望」については、QSP との共催であり、他大学から 15 名の参加があつた。	8
		当該委員会 達成度集計	41/60
		達成度平均点	68/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x / 10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
大学院 FD 委員会 (研究科長)	<p>【3-3 学修成果の点検・評価】</p> <p>◎大学院主催F D研修会の計画・実施する（継続）。</p> <p>◎院生による授業評価の継続実施と授業へのフィードバックシステムを検討する（継続）。</p>	<p>【3-3 学修成果の点検・評価】</p> <p>◎大学院主催F D研修会で「摂食嚥下活動を再建する」のテーマで記念講演・シンポジウムを実施した（遠隔で学部、院教職員、学部生に呼びかけた）。</p> <p>◎院生による授業評価の継続実施と授業へのフィードバックシステムを検討した（今年度は前期、後期に分けて授業へのフィードバックを実施）。</p>	10 6
		当該委員会 達成度集計	16/20
		達成度平均点	80/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
大学院研究科 (研究科長)	<p>基準1. 使命・目的等 《各学科・研究科の強み、特色の明確化》 【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】 ◎QSP（九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットホーム）健康・医療・福祉分野：生活習慣病予防事業への調査・研究を推進する。（継続）</p> <p>【1-4 研究活動への反映】 ◎教員・院生の研究活動の活性化を図る。科学研究費等外部資金への応募数、採択数の増加を目指す（継続）。 ○地域生活支援学専攻博士後期課程院生の国際学会発表を推進する。</p> <p>基準2. 学生 《学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》 【2-1 学生の受け入れ】 ・到達目標は定員の確保。（継続）</p> <p>基準3. 教育課程 《卒業認定、教育課程、学修成果》 【3-2 教育課程】 ◎地域生活支援学専攻博士後期課程への指導体制の充実を図る。（継続）。 スポーツ科学専攻修士課程、臨床心理学、リハビリテーション学博士後期課程申請する。</p> <p>基準4. 教員・職員 《教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援》 【4-2 教員の配置・職能開発等】 ○大学院各専攻の教育研究に即した人事計画の策定する（継続）。</p> <p>特記事項 ◎国際化に向けての国際交流の拡大する（継続） ○大学院広報の充実。入学者増に向けた広報活動を推進する（継続）</p>	<p>【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】 ◎QSP（九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットホーム）健康・医療・福祉分野：生活習慣病予防事業への調査・イベント（R4年12/4 健康ウォーキングに市民213人が参加した（昨年より高校生の参加が減る）。</p> <p>【1-4 研究活動への反映】 ◎科学研究費等外部資金への継続課題数18件、新規課題数18件、院生研究活動として学会発表8件、投稿論文5件であった。</p> <p>【2-1 学生の受け入れ】 ◎修士課程定員23名中26名、博士後期課程定員5名中1名が入学した。 大学院収容人数47名中54名が在籍している（内、留学生9名）。</p> <p>【3-2 教育課程】 ◎地域生活支援学専攻博士後期課程への指導体制の充実を図った。（特別研究に7名体制）。 栄養学専攻博士後期課程、看護学専攻修士課程が設置された。</p> <p>【4-2 教員の配置・職能開発等】 ○リハビリテーション学専攻では教育研究に即した人事計画の策定した（特別研究に20名体制）。</p> <p>特記事項 ◎地域生活支援学専攻などのアジアンコミュニティーカフェはコロナ禍で開催できなかった。 ○ホームページに大学院の活動（修士論文報告会、博士課程の教員紹介などを掲載した。 ・栄養学博士後期課程、看護学修士課程チラシを各100部養成校、専門学校、実習地に配布した。</p>	10 9 8 9 8 8 5 8
		当該委員会 達成度集計	57/70
		達成度平均点	81/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x /10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
	基準1. 使命・目的等 《各学科・研究科の強み、特色の明確化》 【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】 1.食と健康を通して地域、職域へ貢献し、大学のブランドを確立する。高い国家試験合格率を通じ、学科の地域における認識を高める。(継続) 2.食育サポートセンターを通して地域の食育に貢献する。(継続) 【1-3 教育課程への反映】 1.教育内容を精査し、学生に魅力ある教育内容に改善する。 【1-4 研究活動への反映 (含私大研究プランディング事業)】 1.外部資金獲得を推進する。科学研究費申請率の高さを維持し、さらに採択率を高める。(継続) 【1-5 九州西部地域大学・短期大学連携事業】 1.九州西部地域大学・短期大学連携事業に取り組む。(継続)	<ul style="list-style-type: none"> 依然として収束の見えないコロナ禍において、地域での活動等は困難であった。しかしながら、12月に「デコレーションケーキを科学する」をテーマにした学科の公開講座を実施し、参加者からの好評を得た。また、高い国家試験合格率を維持するために、学生が学習に取り組みやすい環境改善に努めた 食育サポートセンターはコロナ禍において十分な活動ができなかった。 新カリキュラムで実施された科目の教育内容等について精査した。 	8
	基準2. 学生 《学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》 【2-1 学生の受け入れ】 1.教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知 2.現在の受け入れ方針と教育目標についてこれでよいか検証を行う。(継続) ②アドミッション・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証 1.本学科のアドミッション・ポリシーに共感できる学生を受け入れる方法を検討する(継続) ③入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持 1.入学者数 120 名、志願者数 240 名、オープンキャンパス 300 名(内生徒 200 名)を目指す。(継続)	<ul style="list-style-type: none"> 入試広報委員の教員と受け入れ方針について検討した。また、入試広報委員の教員を中心に高校でのガイダンスなどで周知した。 管理栄養士を目指す学生が多く入学している。 	9
	【2-2 学修支援】 ②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 本学科の大半の学生は、将来管理栄養士として社会に貢献したいと希望する者が入学している。教育目的に則した学生の受け入れができる。 志願者数 111 名、入学手続き者 84 名である(3月 31 日現在)。 (前年度;志願者数 145 名、入学手続き者 102 名、最終入学者数 98 名) オープンキャンパスは、生徒数 169 名、同伴者 136 名、合計 305 名が参加した。(前年度;生徒数 149 名、同伴者 119 名、合計 268 名) オープンキャンパスの参加者は昨年度よりも増加したが、残念ながら志願者、入学者の増へつながらなかった。 	7
健康栄養学科 (学科長)	基準2. 学生 《学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》 【2-1 学生の受け入れ】 1.教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知 2.現在の受け入れ方針と教育目標についてこれでよいか検証を行う。(継続) ②アドミッション・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証 1.本学科のアドミッション・ポリシーに共感できる学生を受け入れる方法を検討する(継続) ③入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持 1.入学者数 120 名、志願者数 240 名、オープンキャンパス 300 名(内生徒 200 名)を目指す。(継続)	<ul style="list-style-type: none"> 志願者数 111 名、入学手続き者 84 名である(3月 31 日現在)。 (前年度;志願者数 145 名、入学手続き者 102 名、最終入学者数 98 名) オープンキャンパスは、生徒数 169 名、同伴者 136 名、合計 305 名が参加した。(前年度;生徒数 149 名、同伴者 119 名、合計 268 名) オープンキャンパスの参加者は昨年度よりも増加したが、残念ながら志願者、入学者の増へつながらなかった。 	10
	【2-2 学修支援】 ②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、TA の適任者はいなかった。 担任制度によるきめ細やかな指導は学生から高評価を得 	10

	<p>1.担任制度を活用したよりきめ細かい指導を行う。(現在のシステムを継続)</p> <p>【2-5 学修環境の整備】</p> <p>②実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>1.実習室、演習室は予約簿を作成して気持ちよく使えるようする。(継続)</p> <p>2.専門科目に関する実験室と実習室は担当教員を決めて使用時のアドバイスを行う。(継続)</p> <p>3.実習室、演習室以外の学修環境について整備、支援する。(継続)</p> <p>【2-6 学生の意見・要望への対応】</p> <p>①学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に関する学生の意見をさらに把握・分析を行い、その結果について学科教員で共有し改善策を話し合い実行し満足度を高める。(継続) 	<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習室や演習室は予約簿により利用状況を管理しながら、学生らが気持ちよく利用できるようにしている。 ・専門科目に関する実験室と実習室は、各担当教員と助手により使用時のアドバイスを行った。 ・昨年3月に土砂災害後の復旧が終了し、4月の前期開始から学生らが安心して学べる学習環境を整備した。 	10
	<p>基準3. 教育課程</p> <p>《卒業認定、教育課程、学修成果》</p> <p>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</p> <p>①教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知</p> <p>②ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士国家試験対策のより一層の充実と支援強化により受験希望学生の全員合格を目指す。 <p>③単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準については学生便覧の記述通りに運用する。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの意見や要望などについては各学年担任会議などで検討、改善策の提案などを行っている。さらにこれらの情報は学科会議において共有し、必要に応じて策を検討している。 	10
	<p>【3-2 教育課程及び教授方法】</p> <p>①カリキュラム・ポリシーの策定と周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーを意識したシラバスを作成する。(継続) <p>②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーが一貫しているか確認をおこなう。(継続) <p>③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修マップに示した教育課程がカリキュラム・ポリシーに沿った体的編成になっているか確認する。(継続) <p>⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部FDを行い、教育方法の能力アップを目指す。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な教育目標を掲げ、それに沿ったディプロマ・ポリシーを実践している。 ・学生便覧に単位認定、進級、卒業認定、修了認定の基準を明記して学生に周知し、厳正に対応している。 ・管理栄養士国家試験対策は、昨年度の反省点を踏まえて改善しながら実施した。 	10
	<p>【3-3 学修成果の点検・評価】</p> <p>①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部FDを行い、教育方法の能力アップを目指す。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーを意識したシラバス作成に取り組んだ。 	10
	<p>・カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性について確認した。</p>		10
	<p>・履修マップに示したカリキュラム・ポリシーに沿った体的編成になっているか確認した。</p>		10
	<p>・学部学科のFDは実施しなかった。</p>		0
	<p>・学生による授業評価を実施している。</p> <p>・管理栄養士国家試験対策など学生によるアンケートを実施し、それらの結果は学科会議で情報共有して問題点は改善している。</p>		8
	当該委員会 達成度集計	131/160	
	達成度平均点	82/100	

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x /10

区分及び担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
社会福祉学科 (学科長)	基準1. 使命・目的等 『各学科・研究科の強み、特色の明確化』 【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の3国家資格率維持向上に向けた試験対策の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 3種類の国家試験への対策として、4年次に開講する社会福祉特講Ⅰ、Ⅱにおいて、国家試験関連科目についてオムニバス形式で講義を実施し、学習してきた知識・技術の総括的な確認、福祉専門職にとって必要な知識のポイント等の解説を行った。また、模擬試験等を実施し、学習進度に応じた個別指導等を行った。 社会福祉士国家試験には受験者30名（うちスポーツ健康福祉学科1名含む）に対し合格者13名（合格率43.3%、昨年度42.9%）であった。精神保健福祉士国家試験には、受験者9名に対し合格者6名（合格率66.7%、昨年度77.8%）であった。両方の資格に合格した者は6名（昨年度7名）であった。介護福祉士国家試験には受験者13名に対し、合格者13名（合格率100%、昨年度100%）であった。社会福祉士と介護福祉士の両方の資格に合格した者は4名であった。なお、全国新卒合格率（福祉系大学ルート）は、社会福祉士65.0%、精神保健福祉士78.8%であった。 社会福祉士、精神保健福祉士の新卒合格率は全国より10ないし20ポイント低い結果となり、来年度の合格率向上に向けてさらなる対策の強化を行う。 	5
	【1-3：教育課程への反映】 新カリキュラムに沿った教育課程に対応するため、日本ソーシャルワーク教育学校連盟事務局や九州ブロックの養成校間で情報交換を行い、教育内容へと反映させる。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に導入された社会福祉士、精神保健福祉士の新カリキュラムによる教育プログラムは計画通り提供できており、新カリキュラムの受講学生は、来年度には3年次に進級する。実習時間等も増えることになるが、それに対応するべく令和5年4月に1名の専任教員の着任が決まり、教員体制の強化を図ることができた。 本年2月22日には、本学で日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック研究大会を開催し、実践力を高めるソーシャルワーク教育のあり方をめぐって講演会とシンポジウムを実施した。 	8
	【1-4 研究活動への反映（含私大研究プランディング事業）】 地域デイサービス等への参画は、大学で学んでいる専門知識や技術を、地域在住高齢者の生活に役立つよう創意工夫する実践機会として引き続き取り組んでいく。	「私大研究プランディング事業」はすでに終了したが、その過程で実施した、学生が大学で学んだ専門知識や技術を地域在住高齢者の生活に役立たせる実践的試みは、「発展ゼミナール」や「あすなろう」のゼミ活動、あるいはボランティア活動を通じて継続して取り組んでいる。	8
	【1-5】九州西部地域大学・短期大学連携事業 令和4年度 QSP 事業に申請し、「2022 さが国際フェスタ月間」（佐賀県国際交流協会主催）や「2022 年度王仁公園わくわくフェスタ」（神埼市主催）などの企画に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> 10月2日、「王仁公園アジアフェスタ」（会場：王仁博士顕彰公園）に、ACC（アジアンコミュニティカフェ）として留学生・日本人学生・教員ら15名が参加、グルメブースで手作り水餃子を販売、大学一地域交流に貢献。 11月27日、「日中友好の集い」（神埼地区日中友好協会主催）に中国人留学生11人が参加、「体験発表」や「歌謡」プログラムに出演し市民交流に貢献。 	8
	教員間での情報交換は次年度も継続。2校間での学生及び教員の学びの機会やオンライン交流会等の実現に向けて取りくむ。	コロナ禍における実習の現状や教育方法などに関する情報交換をメールで行った。オンライン交流会等については実施に向けての準備ができず実現できなかった。	5
	基準2. 学生 『学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』 【2-1 学生の受け入れ】 社会福祉士及び精神保健福祉士の教育内容等や学科のある方を連動させたわかりやすい説明を機会あるごとに行う。	<ul style="list-style-type: none"> 高校生に対しては、学科報（年2回）を通して、社会福祉士及び精神保健福祉士、介護福祉士の教育内容の特性や、卒業後の分野のイメージについて、具体的な卒業生の紹介も合わせて紙面づくりをした。在学生には前・後期の各学年のガイダンスで、各種資格に必要な科目や実習の要件についてアナウンス、周知に努めた。 学年進行にあわせた取得資格、進路選択について、学年ガイダンスや課程・科目内での説明を行なった。 	8
	広報誌については、高校生が手に取りやすく、興味・関心を引く内容とするために、在校生へ感想や意見を聞き更に充実させる。紙面での発行ができない場合はホームページ用として効果的な内容を検討し作成する。	広報誌（学科報）については、高校生に新しい情報を届けやすくなるように年2回の発行へと回数を増やした。また、紙面での情報提供以外に、Instagram や Facebook のストーリー機能を用い、適宜、情報発信を行なった。	

	学科の情報を取得しやすいようホームページ、SNS の更新や動画制作を行い、年間 100 件以上の情報発信を行う。イベントなどで高校生に学科 SNS について宣伝し、フォロワーを増やす。	上記を踏まえ、学科情報を取得しやすいようにホームページや SNS 等を年間合計 90 件以上の更新を行った。フォロワーも関係団体や社会福祉法人を含め、200 人以上増加し、399 人となった（2023 年 2 月末現在）。	8
	③エージェント制は、長期的視点から留学生選抜に必要であるため、日本語能力をはじめとした一定の質が保証された優秀な留学生を受け入れることができる。そのため、大学・大学院でも導入ができるように、引き続き強力に上層部に働きかけていく。	中国大連ルートとして、「研究生一院生」へという留学生 3 名が入学、進学（1 名が修士課程へ、2 名が研究生）。	7
	④活動の推進（R3 年度の志願者数 57 名、入学（予定）者数 39 名）を受けて、「志願者数」80 名並びに「入学者数」60 名を目指す	・前年度の志願者および入学者数を受け、戦略的な高校訪問等の取り組みを実施したが、志願者数 47 名、入学者数 34 名であった。 ・リクルートからの情報や近隣大学の状況などを分析し、戦略的高校訪問（佐賀市内、筑後・八女地区）及び訴求チラシなどを作成し配布したが令和 5 年度は 30 名ほどの入学数しか見込まれない現状にある。広報戦略及び教育課程の見直しなど抜本的改革が必要である。	4
	【2-2 学修支援】 実習や演習等に各場面において、実践現場のスーパーバイザー級の講師派遣を実施し、リアリティある授業を学生に提供する。	各分野で活躍する現場職員を一日講師として招き、実践現場の状況や課題について講義を行った。特に実習前には医療機関の SW を招き、感染症対策等についても学習できる機会を設けている。	9
	【2-5 学修環境の整備】 学生に図書館をもっと気軽に利活用してもらうための方法について検討を行う。また、オンラインでの文献検索や資料収集等の方法についても図書館と連携し、学生へ周知を図り、積極的な学習へつながるよう取り組んでいく。	図書館サポーターとして学科学生が活動しており、図書館を身近になるような取り組みを図書館と連携して行っている。また、図書館と協議を行い、オンライン書籍等の積極的な導入（購入）を行なった。	9
	介護福祉コースにおいては、専門的な技術の習得に向けて、実習室を有効活用する。	介護技術・医療的ケア・介護課程の知識・技術習得時に活用をおこなった。授業前後の自主学習等に活用することについて取り組んだ。また教務課・健康栄養学部と連携し、実習室の活用をおこなった。	9
	社会福祉士・精神保健福祉士養成において、実習指導室等の実習施設の活用を通して、実習教育の向上を図る。	実習施設の選択や実習計画の作成等、実習前後の指導において、実習指導室等を活用して取り組むことができた	10
	学生が精神保健福祉士により興味が持てるよう、現場に根差した実践的な教育を行うため、病院や地域施設との関係を生かしながら学生教育を行う。	精神保健福祉士に関する興味開拓を高めるため、1 年生から一貫した体系的な学びの機会を提供した。具体的には、地域連携活動をしてのアディクションフォーラムの企画・運営や実習教育・演習などと連動した実践的な学びの機会を学習プログラムに取り入れた。	9
	介護福祉士・社会福祉士の W 資格のメリット等について学生へより理解しやすいよう説明等の工夫を重ね、適切な選択へ導くことの支援を行う。	あすなろうの授業を活用して、1 年生に対する各資格の十分な説明を行い、各課程への応募を実現した。	9
	【2-6 学生の意見・要望への対応】 各ゼミ活動において学生からの不安や不満を確認し、学科会議等を通して学生の動向を把握するよう努める。その上で対応を協議する体制づくりを行う。	課題の多い学生については学科会議で情報を共有し、適切な対応を行った。保護者の不安や相談についても個別面談や電話で丁寧に対応した。	8
	満足度の高い学生支援を行うために、教員間の連携・協力体制を維持する。特に、支援が求められる学生の増加が見られる中、学科会議を活用し、ゼミ担当教員及び学生支援委員を中心に学修支援に必要な情報交換を行なながら連携を強化する。	週に 1 回の学科会議内で協力体制維持、連携に努めた。	8
	基準3. 教育課程 《卒業認定、教育課程、学修成果》 【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーについて学生便覧・シラバスを通じて周知を継続する。	前・後期の各学年のガイダンスで、各種資格に必要な科目や実習の要件について学生便覧・シラバスに記載し、周知に努めた。	8
	新カリキュラム改正後の内容に準拠したディプロマポリシーに基づいた教育を継続する。	新カリキュラム改正後の内容に準拠したディプロマ・ポリシーに基づいた教育を継続して行った。	8
	新カリキュラムを反映したカリキュラム・ポリシーを活用して、効果的な履修指導を行う。	在学生には前・後期の各学年のガイダンスで、各種資格に必要な科目や実習の要件に関するアナウンス、周知に活用した。	8

	【3-2 教育課程及び教授方法】 新カリキュラムを反映したカリキュラム・ポリシーを活用して、効果的な履修指導を行う。	在学生には前・後期の各学年のガイダンスで、各種資格に必要な科目や実習の要件に関するアナウンス、周知に活用した。	8
	新カリキュラムに準拠したディプロマ・ポリシーの周知継続を図り、効果的な履修指導につなげる。	在学生には前・後期の各学年のガイダンスで、各種資格に必要な科目や実習の要件に関するアナウンス、周知に活用した。	8
	旧カリキュラムと新カリキュラムの平行運用を引き続き実践し、新カリキュラムへのスムーズな移行を行う。	旧カリキュラムと新カリキュラムの平行運用を引き続き実践し、新カリキュラムへの移行を行った。	8
	新カリキュラムに根差した教育課程に基づいた教育実践を行う。	新カリキュラムに根差した教育課程に基づいた教育実践を行った。	8
	④令和4年度 QSP 事業企画書として、申請し採択された場合、ACC 活動として、佐賀商業高校との国際協働授業を継続開講する。(継続) 5月頃、スリランカ大使の佐賀訪問(佐賀県、西九州大学、病院・福祉施設、管理団体など)を契機に、「アジア健康福祉フォーラム」の開催に向けて取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀商業高校との高大連携授業は、短大部との間で留学生中心に2回実施。 ・スリランカ留学生(5名)を、短大部にエージェント入学させた。 ・5月13日、中国・貴州民族大学との間で、「協定調印式」をオンラインで挙行。海外オンライン授業など、中心的な交流活動は社会福祉学科が主催、担当している。 	9
	【3-3 学修成果の点検・評価】 カリキュラムチェックリストおよび学生の自己評価データの活用方法の検討。	学生による自己評価が適正に実施されるよう、学年ガイダンス・各ゼミ・各教科担当などで積極的な働きかけによる周知を行った。活用方法の検討は継続中。	8
	②令和4年度は佐賀県社会福祉士会に意見を求める。また、教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックについては、大学全体の授業評価に加えて、福祉士養成を可能にする点検及び評価の方法を検討する。	神埼市福祉事務所所長より意見聴取を実施。三つの方針及び教育課程方針、入学者選抜方針などについて妥当であるとの評価を受ける。ソーシャルワーク機能の発揮ができる人材の養成を期待されており、時代のニーズに対応できる課程の開設に向けて検討を重ねている。	9
		当該委員会 達成度集計	214/270
		達成度平均点	79/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
スポーツ健康福祉学科 (学科長)	<p>基準1. 使命・目的等 《各学科・研究科の強み、特色の明確化》 【1-2 学科のブランドの明確化および変化への対応】 ○地域支援活動の推進による学科のブランド力強化（継続） 【到達目標】 • 地域スポーツ実践演習等の取り組みの強化継続（QSP ウォーキングブチイベント（神埼市）） • 連携事業における具体的取り組み 【1-4 研究活動への反映（含私大研究プランディング事業）】 各特色的研究活動への反映 ○外部資金獲得の推進（継続） 【到達目標】 • 地域連携活動 1件 ※科学研究費 7件応募（学科 100.0%） ○設置申請の結果に応じた準備を行う。</p> <p>基準2. 学生 《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》 【2-1 学生の受入れ】 ○入学定員（50名）確保にむけた入試内容及び広報活動の検討・推進（継続） 【到達目標】 • 効果的な広報活動の検討と実施（OCへの生徒参加80名を目指す。） ○編入生広報活動と受け入れ準備 【2-2 学生支援】 ○SA導入の検討（継続） 【到達目標】 • 学科内FD研修の開催 （科目内における指導補助としての導入可能性を検討） 【2-6 学生の意見・要望への対応】 ○学生懇談会の開催継続 ○スポーツ系サークル活性化支援</p>	<p>○神埼市の元気かんざき市民交流祭実行委員として参画しウォーキングイベントを実施した。 佐賀県 SSP 構想連携事業では、「フィットネスチェック」及び「女性アスリート支援」の 2 つの事業を計画し、県の R5 年度予算化（総額約 1 億円）を実現した。また、佐賀スポーツクラブ（バレーナーズ）との事業も継続している。</p> <p>○外部資金獲得として、神埼市より「元気かんざき健康推進事業」の継続受託と、佐賀県 SSP 構想連携事業の一環で体成分分析装置（InBody）を設置（貸与）した。 また科学研究費の応募は、専任 9 名（今年度から特任も対象）から 7 件（継続 1 件、新規 6 件）77.8% であった。</p> <p>○大学院スポーツ科学専攻修士課程設置および専修免許状取得のための認可申請に伴う作業を行い、提出した。</p> <p>○現在（3/30）の入学予定者は、49 名（98.0%）である（1名辞退）。OC と学校見学会の来学参加者総数は、生徒 55 名（昨年度 66 名）となり目標数に至らなかった。高校内ガイダンスは、依頼数 38 校（昨年度 50）に対して、32 校（1 校中止：昨年度 30）で実施した。 リクルート進学担当者を招き体育スポーツ系の進学動向と本学科の今後の戦略について検討する学科 FD を実施した。なお、学科 HP へのトピック掲載をはじめ、広報活動として SNS を活用した動画配信を積極的に行った。</p> <p>○3 年次編入制度を導入し対象となる短大に案内を行ったが利用者はいなかった。</p> <p>○学科の模範となる学生を選出し学科イベントや学修支援に参画してもらう取り組みを試行しているが、制度設定までには至っていない。</p> <p>○各学年 2 名による代表者出席のもとに年 2 回、前後期終了後に実施した。学生から出された意見や要望に対する検討と対応に努め、結果をまとめて公表した。</p> <p>○9 つの指定種目への強化費の予算立てを行い、希望サークルに対して支援を行った。また、サッカーサークルについては、外部団体との連携活動に向けた話し合いを行った。</p>	10 9 10 7 7 6 10 8

	<p>基準3. 教育課程</p> <p>『卒業認定、教育課程、学修成果』</p> <p>【3-2 教育課程及び教授方法】</p> <p>○アスレティックトレーナー資格取得制度の整備（新規）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課程認定に応じたカリキュラム配置の検討・準備 <p>○フィットネス／ウェルネス・スポーツにおける選択科目としての運営方法の検討（学科合同実施等）</p> <p>【3-3 学修成果の点検・評価】</p> <p>○外部関係機関による第三者評価導入の検討・実施（継続）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部評価者の検討と実施に向けた準備 <p>【その他】</p> <p>○学科設立10周年記念行事の準備</p> <p>○学科同窓会への支援</p>	<p>○課程認定に応じたカリキュラムの検討は進んでいるが、同資格を保有し3年以上の実務経験者を専任教員として配置する必要があるが、人事の調整ができていない。</p> <p>○昨年度導入した選択制の履修者実績を踏まえ授業運営に支障が無い範囲で担当教員の配置数の削減を行った。</p> <p>○実習生受け入れ施設から実習巡回時に学科に対する印象や教育内容についての意見を伺っているが、関連機関を選定し会議体での実施には至っていない。</p> <p>○教員による準備委員を組織し、式典の日程やプログラムの内容について検討する会議を行い、大枠を決定した。</p> <p>○10周年記念行事の開催に合わせた学科独自の同窓会発足に向けての準備支援を行った。</p>	<p>6</p> <p>10</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>8</p>
		達成度集計	106/130
		達成度平均点	82/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
リハビリテーション学科 (学科長)	<p>1. 使命・目的等</p> <p>◎地域社会との連携強化</p> <p>○地域を基盤する教育機関としてのブランド力の確立（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の自治体や医療機関等と連携して研究・教育・広報活動に取り組む（継続）。 <p>基準2. 学生</p> <p>《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</p> <p>◎学生受け入れ、学生の支援、学修環境の整備、学生からの意見への対応（継続）。</p> <p>○オープンキャンパスの充実をはかり、リハビリテーション学科を広報する。</p> <p>○学科独自の宣伝媒体、高校訪問、在学生を通じた母校への広報活動、実習施設での広報活動の実施（継続）。</p> <p>◎学部独自の就職説明会の実施（継続）。</p> <p>基準3. 教育課程</p> <p>《卒業認定、教育課程、学修成果》</p> <p>◎学科FDを開催し、講義や学生対応について意見交換と情報共有を図る。</p> <p>○学修成果の点検・評価結果のフィードバック（継続）。</p> <p>○「臨床講師制度」等、実習施設との連携強化（継続）。</p> <p>○学修環境改善のため実習施設の点検・開拓（継続）。</p> <p>◎卒業率、留年率の改善（継続）。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業率：理学、作業共に80%以上。 ・ 国家試験合格率100%の達成。 ・ 就職率100%の達成。 <p>◎リハビリテーション教育評価認定審査（第三者評価）を受審する。</p>	<p>1. 使命・目的等</p> <p>◎地域社会との連携強化</p> <p>○地域を基盤する教育機関としてのブランド力の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ QSP 事業医療・保健・福祉分野の主担当として、12月4日に開催されたQSP ウォーキングイベントに参加し約213名の参加者に対して健康チェックを実施した。 ・ (株) MIZ と協働で佐賀県在住の高齢者72名（2022.09.13-09.14）に健康指導を実施した。また、分析結果を佐賀市民文化会館で報告した。 ・ 自治体と協力して地域の高齢者の生活支援に携わった <p>①佐賀市：認知症初期集中支援チーム委員、地域ケア会議アドバイザー、女性アスリート支援、CHILWELLによる産前産後支援、親子教室②江北町、鹿島市：認知症カフェ、認知症サポート養成講座、認知症ステップアップ講座③小城市：認知症カフェ、認知症評価事業、認知症サポート養成講座④神埼市：地域ケア推進委員、⑤鳥栖地区広域市町村圏組合：認知症の人の家族介護者支援。⑥神埼警察署、吉野ヶ里社協との三者地域連携事業で、特殊詐欺予防講座や認知症の人への声かけ訓練、三田川中と東脊振中での認知症講座を実施した。⑦吉野ヶ里町社協との協働により、地域作業療法学演習の一貫で地域の高齢者に介護予防支援事業を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吉野ヶ里町包括支援センター運営委員、同ふれあいネットワーク推進委員に参画した。 <p>基準2. 学生</p> <p>《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</p> <p>◎学生受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校訪問や在学生の出身校への広報活動、卒業生から高校教員へのDMによる広報活動を実施した（継続）。 ・ R05年度の入学予想数は、理学55/40名(138%)、作業22/40名(55%)、学科75/80名(定員充足率96%)と前年度より改善見込みである（2023.02.24現在）。 <p>◎学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策を行なながら学部独自の就職説明会を実施した（継続）。 <p>基準3. 教育課程</p> <p>《卒業認定、教育課程、学修成果》</p> <p>○学科会議・専攻会議で、講義方法や学生対応について意見交換や情報共有を図った。</p> <p>○リハビリテーション教育評価認定審査を受審した。</p> <p>○卒業率、留年率の改善に向けて毎週木曜日に教員間で意見交換と情報共有を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率はPT90.9%、OT93.7%。（2023/03/23現在） ・ 13期生4年卒業率はPT90.9%、OT78.3%である。 <p>◎国家試験合格率改善に向けて、外部講師を招聘してセミナーを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験合格率（新卒）はPT 100%，OT 77.2%である。（2023/03/02 予想 03/23 発表） <p>◎第5次カリキュラムに向けて学科で検討チームを立ち上</p>	10
リハビリテーション学科 (学科長)	<p>基準2. 学生</p> <p>《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</p> <p>◎学生受け入れ、学生の支援、学修環境の整備、学生からの意見への対応（継続）。</p> <p>○オープンキャンパスの充実をはかり、リハビリテーション学科を広報する。</p> <p>○学科独自の宣伝媒体、高校訪問、在学生を通じた母校への広報活動、実習施設での広報活動の実施（継続）。</p> <p>◎学部独自の就職説明会の実施（継続）。</p> <p>基準3. 教育課程</p> <p>《卒業認定、教育課程、学修成果》</p> <p>◎学科FDを開催し、講義や学生対応について意見交換と情報共有を図る。</p> <p>○学修成果の点検・評価結果のフィードバック（継続）。</p> <p>○「臨床講師制度」等、実習施設との連携強化（継続）。</p> <p>○学修環境改善のため実習施設の点検・開拓（継続）。</p> <p>◎卒業率、留年率の改善（継続）。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業率：理学、作業共に80%以上。 ・ 国家試験合格率100%の達成。 ・ 就職率100%の達成。 <p>◎リハビリテーション教育評価認定審査（第三者評価）を受審する。</p>	<p>基準2. 学生</p> <p>《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</p> <p>◎学生受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校訪問や在学生の出身校への広報活動、卒業生から高校教員へのDMによる広報活動を実施した（継続）。 ・ R05年度の入学予想数は、理学55/40名(138%)、作業22/40名(55%)、学科75/80名(定員充足率96%)と前年度より改善見込みである（2023.02.24現在）。 <p>◎学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策を行なながら学部独自の就職説明会を実施した（継続）。 <p>基準3. 教育課程</p> <p>《卒業認定、教育課程、学修成果》</p> <p>○学科会議・専攻会議で、講義方法や学生対応について意見交換や情報共有を図った。</p> <p>○リハビリテーション教育評価認定審査を受審した。</p> <p>○卒業率、留年率の改善に向けて毎週木曜日に教員間で意見交換と情報共有を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率はPT90.9%、OT93.7%。（2023/03/23現在） ・ 13期生4年卒業率はPT90.9%、OT78.3%である。 <p>◎国家試験合格率改善に向けて、外部講師を招聘してセミナーを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験合格率（新卒）はPT 100%，OT 77.2%である。（2023/03/02 予想 03/23 発表） <p>◎第5次カリキュラムに向けて学科で検討チームを立ち上</p>	8

<p>○第5次カリキュラムを検討する。</p> <p>基準4. 教員・職員</p> <p>『教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援』</p> <p>①コロナ対応に取り組みながら教育プログラムを止めないようにマネジメントする。</p> <p>②研究活動の活性化(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携に寄与する研究の実施と充実(継続)。 ・外部資金応募数・採択数の増加(継続)。 ・地域の自治体や医療機関との共同研究の推進(継続)。 <p>③自己点検・評価システムの履行(継続)。</p> <p>○教育・研究経費の点検と節約の実施(継続)。</p> <p>○教育環境の維持するための設備・備品等の点検・整備(継続)。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究の検討と継続 ・外部資金獲得率の向上 ・学部教員配置の適正化 	<p>げ、検討を開始した。</p> <p>基準4. 教員・職員</p> <p>『教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援』</p> <p>①教員配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度末に理学療法学専攻の教員3名が退職し、令和4年度の補充は2名であった。また作業療法学専攻の教員が令和4年度末で退職予定である。 <p>②研究活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の影響を受けつつも、引き続き地域と連携をしながら地域課題の解決に寄与する研究活動に取り組むことができた。 ・5年連続で科研費への応募率は増加し、令和4年度は94.7%であった。新規採択・継続も11件となった。 ・地域の自治体や医療機関との共同研究を実施することができた。 <p>○PT/OT養成施設ガイドラインに基づき、専門委員会の立ちあげ、自己点検評価公表に向けて準備を行った。</p> <p>○教育備品・設備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開学より15年が経過し、経年劣化により破損した施設・教育備品の修理や買い替えを少しずつ進めることができた。令和5年度はPT専攻で定員超過となるため、足りない備品の購入が必要となる。 ・教育・研究経費について毎年見直し、進めしていく。今年度はコロナ対応(実習)で必要な支出もあった。
<p>5. その他</p> <p>○同窓会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会との連携を図り、卒業生の活動を支援する(継続)。 	<p>5. その他</p> <p>○同窓会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒後研修会をリモートで実施した。 ・リモート会議で頻回により活発な運営会議を開催することができた。
	<p>当該委員会 達成度集計</p> <p>達成度平均点</p>
	43/50
	86/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
子ども学科 (学科長)	<p>基準1．使命・目的等 『各学科・研究科の強み、特色の明確化』 【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】 地域に生活する人々の生活を科学し実践する教育機関としてのブランドの確立 ・「地域生活支援」の観点を有した、学科の特色の創出とそのブランド化 【到達目標】 ○学科における「地域生活支援」の観点、方向性について、引き続き検討を行う。 併せて学科ブランドを明確化する作業を継続して進める。</p> <p>中期目標1－3：教育課程への反映 中期計画：各特色的教育課程への反映 計画事項：確立するブランドを反映した教育課程の考案、実施</p> <p>【到達目標】 ○学科ブランドを反映した教育課程の再考を行い、学生の履修に関するオリエンテーションの内容を十分に検討し、教育体制の強化を図る。</p> <p>中期目標1－4：研究活動への反映 中期計画：各特色的研究活動への反映 計画事項：学科のブランドに反映した研究テーマの考案、実施</p> <p>【到達目標】 ○子ども学科のブランドに関連した研究テーマを考案し、研究推進に向けた研修及び検討会を実施する。 ○研究活動の促進と充実のため、外部資金獲得の推進を図る。</p> <p>基準2：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応 中期目標2－1：学生の受入れ 中期計画①：教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知 計画事項：教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの検討</p> <p>【到達目標】 ○教育目的を踏まえたアドミッションポリシーの再考を継続して行う。</p> <p>中期計画②：アドミッション・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証 計画事項：入学者受け入れと入学後の学修状況の関係について検討する。</p> <p>【到達目標】 ○入学者受け入れの実態とアドミッションポリシーの関係、及び入試結果と入学後の学修状況との関係について、分析を行う。</p>	<p>○学科における「地域生活支援」の観点、方向性に関する検討及び学科ブランドを明確にする作業を学科将来構想検討会を中心進めることができた。</p> <p>○学科ブランドを反映した教育課程及び履修内容の見直しを行い、教育体制の強化を図ることができた。</p> <p>○子ども学科のブランドを反映した「発達障害児支援に強い教員養成プログラム構築の試みー佐賀県内特別支援学級担当教員への調査ー」をテーマに掲げ、大学が進める研究の一環として、研究推進に向けた研修及び共同研究に取り組むことができた。</p> <p>○外部資金獲得の推進について、学科内での具体的な検討が十分ではなかった。</p> <p>○教育目的を踏まえたアドミッションポリシーの再考を継続して行った。</p> <p>○アドミッションポリシーに沿った入学者受け入れの関係を継続検討し、入学後の学修状況との関係のデータ分析を行った。</p>	9 9 7 10 10

<p>中期計画③：入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>計画事項：志願者増に向けた学生募集活動の強化</p> <p>【到達目標】</p> <p>○学生募集活動について、引き続き、他大学の情報収集を行って、その上で過去5～10年間の取り組み及び令和3年度入試傾向を検証し、入学定員に沿った学生受け入れ数の維持を図る。</p>		10
<p>中期目標2－2：学修支援</p> <p>中期計画②：TA (Teaching Assistant)</p> <p>等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <p>計画事項：学修実態の的確な把握と必要な支援の充実</p> <p>【到達目標】</p> <p>○学生の学修の実態について、学期末及び学期始めに把握し、指導に当たる。その際、実態把握や指導に関する方法や時期などの検討を十分に行い、学科教員間の共有を図る。</p>		9
<p>中期目標2－5：学修環境の整備</p> <p>中期計画②：実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>計画事項：子育て支援室、保育演習室、図書館等の活用状況の把握と有効活用の推進</p> <p>【到達目標】</p> <p>○子育て支援室、保育演習室、図書館等の活用状況の把握と有効活用に関する継続検討を行う。</p>		8
<p>中期計画④：授業を行う学生数の適切な管理</p> <p>計画事項：授業を行う学生数の適正化に関する検討と実施</p> <p>【到達目標】</p> <p>○授業を行う学生数の適正化について早期からの検討を継続的に行う。</p>		9
<p>中期目標2－6：学生の意見・要望への対応</p> <p>中期計画①：学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>計画事項：学生の意見の掌握と学修支援への活用</p> <p>【到達目標】</p> <p>○全学的に行う学生への意識調査の分析を有効活用しつつ、学修支援に関する学生の意見を掌握する方法を再検討する。そのうえで学修支援への活用を図る。</p>		7
<p>基準3：卒業認定、教育課程、学修成果</p> <p>中期目標3－1：単位認定、卒業認定、修了認定</p> <p>中期計画①：教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知</p> <p>計画事項：教育課程の改変に伴うディプロマ・ポリシーの再考と周知</p> <p>【到達目標】</p> <p>中期計画②：ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準等の策定と周知</p> <p>計画事項：単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定等の基準の周知</p> <p>【到達目標】</p> <p>○単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定基準の確認及び周知について、引き続き検証を行う。</p> <p>中期計画③：単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用</p> <p>計画事項：単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定等の基</p>		10

<p>準の周知</p> <p>【到達目標】</p> <p>○単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定基準の確認及び周知と厳正な適用について、引き続き検証を行う。</p> <p>中期目標3－2：教育課程及び教授方法</p> <p>中期計画①：カリキュラム・ポリシーの策定と周知</p> <p>計画事項：教育課程の改変に伴うカリキュラム・ポリシーの再考と周知</p> <p>【到達目標】</p> <p>○教育課程に沿ったカリキュラム・ポリシーの再考を継続して行う。</p> <p>中期計画②：カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性</p> <p>計画事項：カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの整合性の検証と相互調整</p> <p>【到達目標】</p> <p>○教育課程に沿ったディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの再考と周知、及び両者の整合性について、継続検討を行う。</p> <p>中期計画③：カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>計画事項：新しいカリキュラム・ポリシー即した教育課程の体系的編成</p> <p>【到達目標】</p> <p>○カリキュラム・ポリシーに即した教育課程の体系的編成の検証を引き続き行う。</p> <p>中期計画④：教授方法の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>計画事項：学生の実態に応じた教授方法の開発と効果的な実施</p> <p>【到達目標】</p> <p>○学生の実態に応じた教授方法の開発と効果的な実施について、学科内での情報共有及び取り組みの検討を継続して行う。</p> <p>中期目標3－3：学修成果の点検・評価</p> <p>中期計画①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>計画事項：学修成果の点検・評価の再考と検証</p> <p>【到達目標】</p> <p>○三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価の実態把握と学科内での共有方法等について、再考と検証を行う。</p> <p>中期計画②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>計画事項：学修成果の点検・評価の有用な実施</p> <p>【到達目標】</p> <p>○学修成果の点検・評価の有用な実施について、継続検討を行う。</p>	<p>○単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定基準の確認と周知及び厳正な適用について、引き続き検証を行った。</p> <p>○教育課程に沿ったカリキュラム・ポリシーの再考を継続して行つた。</p> <p>○教育課程に沿ったディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの再考と周知、及び両者の整合性について、継続検討を行つた。</p> <p>○カリキュラム・ポリシーに即した教育課程の体系的編成の検証を継続して行つた。</p> <p>○学生の実態に応じた教授方法の開発と効果的な実施について、学科内での情報共有及び取り組みの検討を継続して行つた。</p> <p>○学修成果の点検・評価の実態把握は行ったが、学科内での共有及び検討は十分ではなかった。</p> <p>○学修成果の点検・評価の有用な実施について継続検討を行つたが、学科内での協議が十分ではなかった。</p>	10 10 10 10 10 10 7 7
		当該委員会 達成度集計
		達成度平均点

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び担当	令和4年度検討および実施事項	令和4年度総括	達成度
	<p>基準1. 使命・目的等 『各学科・研究科の強み、特色の明確化』 【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】 学部、学科のブランド構築が、学生に浸透しているかを評価するために、学修成果の自己評価を1年から4年まで、ガイダンスの時間を用いて全員に行わせる。</p> <p>学科FDを、前期1回、後期1回実施し、学科の特色について大学院との連携を意識しての討議を、学科教員全員で行う。</p> <p>(発達臨床支援セミナーを、)新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今後は対面、Zoomの両方で実施できるように準備し、年4回開催する。</p>	<p>基準1. 使命・目的等 『各学科・研究科の強み、特色の明確化』 【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】 2022年度前期の学修成果自己評価回答率は、1年93%、2年87%、3年66%、4年48%であったため、上級生の入力指導が課題となった。しかし4年生の卒業時評価は80%でありかつ、成績評価にみあつた適正な評価がなされていた。ここから学科がブランドとして掲げる学位像にみあう学生の輩出ができたと考えられる。</p> <p>FD研修は計画通り実施し、学科と大学院の連携を図っていくことを学科教員全体で意識することができた。しかし、討議したことを今後、実際に実現していくことが課題となる。2月の学科会議において、今後は芸術に加え身体やコミュニケーションにも目を向けた「表現療法」を特色として入試広報等にあたることが確認された。</p> <p>令和4年度は、6月24日、8月26日、10月28日の3回、ハイブリッド方式で実施した。参加者は3回合計102名であった。12月は降雪のため中止。</p>	8 10 10
心理カウンセリング学科 (学科長)	<p>基準2. 学生 『学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</p> <p>【2-1 学生の受入れ】 ①教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知 アドミッションポリシーを単に暗記するのではなく、その意味するところまで理解をした上で受験に臨まれるよう、アドミッション・ポリシーの高校現場での浸透を図る。</p> <p>②アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証 ③アドミッション・ポリシーに基づく入学者受け入れ方法の再考 ・令和4年度でも引き続き、アドミッション・ポリシーに基づく入学者受け入れ方法の再考していく。同時に、少子化の影響を受けた志願状況を推測し、アドミッション・ポリシーに合った選抜方法となるよう今後も継続して、検討を重ねる。</p> <p>④入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持 ⑤入学定員確保に向けた広報活動の充実と強化 HP、SNS等による情報発信の持続 HP、Twitter、Instagramを年間30件記事投稿に利用する。 高校訪問の積極的実施を引き続き行う。</p> <p>【2-2 学修支援】 ①TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実 令和4年度も引き続き「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」「芸術療法」「芸術療法Ⅱ」「芸術療法Ⅲ」において、計99時間TAを活用し、学生の学修支援を行う予定である。 1年次「キャリアアップ講座Ⅰ」については、受講学生の学習効果についてアセスメントを行い、独自性を有する初年次教育の開発を目指す。 2年次「キャリアアップ講座Ⅱ」に加え、令和4年度は3年次「キャリアアップ講座Ⅲ」も新たに開講されるため、今年度のアセスメントテストの内容と授業内容について検討し、就職に必要な基礎学力の向上に努める。</p>	<p>基準2. 学生 『学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』</p> <p>【2-1 学生の受入れ】 佐賀県内の高校への周知は、概ね行われていると感じている。しかしながら、十分とは言えないため、継続的なアドミッション・ポリシーの浸透が必要である。そして、少子化に伴う高校生の減少に対応するべく、佐賀県内のみならず、熊本県、長崎県の高校へのアドミッション・ポリシーの浸透が求められる。</p> <p>総合型選抜と学校長推薦の出題において、アドミッション・ポリシーに沿った出題を行った。 ブランディングにおいては、芸術療法を主体とすることで高校への周知が浸透しつつある。そのため、このブランディングを継承し、さらに発展していくことが望まれる。具体的には、芸術分野（書道、美術、音楽等）に功績のあった学生を積極的に受け入れていく方向も検討すべきであろう。これは、広報にもなることを期待している。</p> <p>ホームページ掲載記事42件、インスタグラムおよびFacebook、Twitter掲載記事39件で、目標値を達成する更新を実施した。高校訪問は23校、ガイダンスは26校であった。</p> <p>【2-2 学修支援】 「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」「芸術療法」「芸術療法Ⅱ」「芸術療法Ⅲ」において、TAを活用した。演習科目における学生の理解促進のために大学院生が補助をおこなうことで、学生の学修支援の有効な手立ての一つとなった。 1年次「キャリアアップ講座Ⅰ」については、令和3年度に、授業担当教員が対象学生への指導に用いる独自のテキストを作成し、令和4年度はそのテキストに加筆修正したものを作成し、授業に使用した。 2年次「キャリアアップ講座Ⅱ」の受講者には、アセスメントテストを受講開始前、受講最終日に2回実施した。その結果を3月に担当教員で分析し、次年度の授業内容の改良資料として用いる。 なお、3年次「キャリアアップ講座Ⅲ」は、受講者が1名の</p>	9 9 8 8

	<p>【2-5 学修環境の整備】</p> <p>②実習施設、図書館等の有効活用 図書館の蔵書充実に向けて、国内外の高度な専門書から乳幼児向けの心理的ケアへの絵本まで、幅広く揃えることを目的としたい。臨床心理相談センターにおいて、新型コロナ電話相談の事業を継続する。</p> <p>③授業を行う学生数の適切な管理 ○演習、実習等における適切な学生数の管理 充実した演習、実習になるよう人員配置に関しては継続していく。</p>	みだったため、開講しなかった。	
	<p>【2-5 学修環境の整備】</p> <p>新刊書籍から絶版になっている書籍まで、幅広く揃えることができた。また、精神医学、臨床心理学のみならず、民俗学、言語学の分野のものを所蔵することができた。臨床心理相談センターは学科の重点事業として多くの心理検査を新規購入することができた。新型コロナ電話相談においても事業を継続した。</p>		10
	<p>学生 15 名に対して教員 1 名の配置で各演習、実習指導が行えるよう教員配置を行った。今後も継続して行っていく。心理実習に関しては、各ゼミ担当者より履修状況を把握し実習に必要な履修について 2 年次、3 年次の学生に周知させる。</p>		10
	<p>【2-6 学生の意見・要望への対応】</p> <p>①学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用 ○学生の学修状況及び意見、要望の把握、分析、対応 ・令和 4 年度においても、引き続きゼミ担当教員による学修状況の個別指導を徹底し、学生の状況把握に努める。履修不良の学生等については保護者面談を積極的に行っていく。 ・心身の障害により配慮要望が出された学生について、引き続き学生支援委員・障害学生支援委員を中心に状況の聞き取りを行い、学科会議において教員全体で支援について検討・確認を行う。教務課との連携も引き続きを行う。 ・学科の学生状況に応じた教育や学修支援のため、学科 FD 研修の機会を活用し、『学生生活実態調査』の活用も引き続きを行う。 ・事務職員との連携も継続し、実態把握や対応の可視化のために、学科会議での報告を行い、議事録にて文書化する。</p>	<p>【2-6 学生の意見・要望への対応】</p> <p>ゼミ担当教員による学生の学修状況個別指導を各学年 3~4 回以上行い、学生の状況把握に努めた。履修不良の学生等については保護者面談も積極的に行った。 令和 4 年度に心身の障害により配慮要望が出ている学生計 17 名について、学生支援委員・障害学生支援委員を中心にして状況の聞き取りを行い学科会議で支援のあり方について検討・確認を行うとともに学科教員以外で授業担当を行っている教員へは教務課を通じ文書にて配慮依頼を行った。学生の支援要望の内容によっては、学科だけでなく障害学生支援委員会での検討を行い、全学的に障害学生支援を検討する機会を得た。 学科 FD 研修は入試関係の研修を行ったため、学科会議において、『学生生活実態調査』の分析をもとに検討を行った。教員の細やかな指導への満足度が後輩へ本学を勧めるかの項目に影響していることを確認し、授業内容の向上や細やかな個別対応を行うことを学科教員全体で確認した。 事務職員と連携し、実態把握や対応の可視化のために、学生対応について学科会議での報告を行い、議事録にて文書化を行った。</p>	9
	<p>基準3. 教育課程 《卒業認定、教育課程、学修成果》</p> <p>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</p> <p>①教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知 教育課程改変に伴うディプロマ・ポリシーの再考と検証を行う。</p> <p>②ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知</p> <p>心理実習内規の適切性と改訂の必要性について、令和 3 年度の 4 年生の実習評価や受講態度を分析し、学科で検討を行う。</p>	<p>基準3. 教育課程 《卒業認定、教育課程、学修成果》</p> <p>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</p> <p>1 月に全学の方針により、ディプロマ・ポリシーの改正が行われた。これは学修成果の自己評価の評価観点をそのままディプロマ・ポリシーとするものであり、達成度評価の意味を学生がつかみやすくなるものとなった。</p> <p>卒業研究の履修内規について、ガイダンスで 3 年生に周知した。一方で 4 年生の段階で専門基幹科目及び専門展開科目の修得済単位数の少ない学生が複数いることが判明し、追加の履修指導を行った。</p> <p>令和 4 年度受講生 (N=27) において、実習評価と 2 年次迄と 3 年次迄の GPA の相関がそれぞれ 0.28 と 0.27 であった。選抜効果も考慮すると、下位学年での成績を基準に実習可否を判断することは一助になると考えられた。</p>	10
	<p>【3-2 教育課程及び教授方法】</p> <p>①カリキュラム・ポリシーの策定と周知 教育課程改変に伴うカリキュラム・ポリシーの再考と周知 高校ガイダンスでは、従来の訪問型に加え、新型コロナ感染対策も踏まえ、オンラインでの参加も積極的に検討する。芸術療法Ⅲ等の講義内容を SNS への広報活動に加える。</p> <p>②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性 カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性の検証を FD 研修会等を通して継続して行う。</p> <p>⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施 ⑥学生の実態に応じた教授方法の開発と検証 引き続き学生の状態について学科内で情報を共有し、迅速に対応できるように心がける。また特定の教員に負担が集中しないよう、学科教員全員で対応を検討する。</p>	<p>【3-2 教育課程及び教授方法】</p> <p>高校ガイダンスにおいては、ほぼすべての依頼を引き受け 26 件に達した。また、遠隔の高校にはオンライン講義という形にて対応した。さらに、講義内容の広報も 12 科目についてホームページに掲載するなど積極的に行った。</p> <p>ディプロマ・ポリシーが 1 月に改正されたため、カリキュラム・ポリシーとの整合性の検証は新しい課題となつた。新しいディプロマ・ポリシーと履修系統図との関係は示した。</p> <p>学生の状態について学科内での情報共有は常に実行ってきた。かつ迅速に対応した。また特定の教員に負担が集中しないよう、学科教員全員で対応を検討することにより、学生に適した教授を行うことができた。</p>	10
			7
			10

	<p>【3-3 学修成果の点検・評価】</p> <p>①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用 令和 4 年度に進級や資格取得基準の検討を、学科で実施する。</p> <p>②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック ・ループリックの説明と評価を学生に実施、資料収集を続ける。 ・学生が行った学修成果の自己評価に対するフィードバックについて学科 FD 研修会で検討する。</p>	<p>【3-3 学修成果の点検・評価】</p> <p>11 月の学科会議にて、進級や資格取得基準の検討を行った。令和 4 年 3 月に公認心理師受験資格に対応する新カリキュラム対応学生が卒業したばかりであること、また、公認心理師受験移行期間 5 年間が令和 4 年で終了し、5 年度から受験科目の質的向上について厚生労働省や日本公認心理師養成機関連盟が見直しを検討していること、以上 2 点より今年度の修正は見送ることとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年 3 月のガイダンス時に、2,3,4 年学年主任教員より、ループリックについて説明を行い、学修成果の自己評価入力を実施する予定。 ・フィードバックについて、令和 4 年度学科 FD 研修会で検討を行った。教員への周知は図れたが、フィードバック時期やそのコメントについてまでは時間内に検討できなかったため、令和 5 年度に持ち越すことになった。 	7
		当該委員会 達成度集計	153/170
		達成度平均点	90/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
看護学科 (学科長)	<p>基準1. 使命・目的等 『各学科・研究科の強み、特色の明確化』 【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</p> <p>◎看護学科のカリキュラムの特徴・スキルスラボ・シミュレーションによる教育およびICT教育の推進等の内容・教授方法とその学修成果をまとめ、SWOT分析の活用により取りまとめ、情報発信し、看護師国家試験合格率100%を目指し、入学生確保につなげる。</p> <p>①第5次改正カリキュラムと旧カリキュラムが並行する履修の履修指導を徹底し、カリキュラムの進行とともに教育の充実を図る。また、教育課程の評価を行い、課題を明らかにする。</p> <p>②関連職種連携入門・関連職種連携演習などの他学科と共有する科目の周知と充実を目指し、授業内容・方法等連携の強化および教育内容の充実を図るとともに情報発信する</p> <p>③Teams等の遠隔授業の効果的かつ継続的な活用により、学生・教員ともにICT技術のスキル向上を目指し、授業・実習環境の充実を図り、実習指導体制の充実および効率化を目指す。</p> <p>④保健師選択30名枠は本学の魅力であるので、国家試験合格率を高め、30名に近い選択を維持する</p> <p>◎令和4年度開設の大学院修士課程（看護学専攻）の申請内容に基づき、教育課程を順調に遂行する。また、次年度の募集に関して、広報活動等により入学生の確保に努める。</p> <p>①大学院生へのオリエンテーションおよび支援を行い、院生の不安解消と学修環境の整備に努め、教育課程を遂行する。AC申請の結果を受け、準備する。</p> <p>②大学院入学生の多くは社会人であるので、夜間開講制をとることから、看護学部と大学院の担当を並行するため、組織運営の調整等の運営の円滑化を図る。</p> <p>③実習施設および関係機関と連携しつつ、実習指導・教育の研修会等の企画および大学院設置の情報発信による広報活動をFD委員会と協力し、看護学部地域看護研究研修センター事業として運営する。</p> <p>○卒業生・在学生の進学希望のニーズに対応し、本学の特徴となる助産専攻科の設置の可能性を調査・検討する。</p>	<p>【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</p> <p>改正カリキュラム（新カリ）と旧カリキュラム（旧カリ）が並行し、あすなろうⅠが「あすなろう」へ、生活支援が「関連職種連携入門」へ、そして、「データサイエンス演習」がスタートした。</p> <p>「あすなろう」では小城市的歴史・文化・風土についての地域特性の学びをさらに深めるため、村岡総本舗の村岡代表取締役を招き入れての講義依頼をはじめ、佐賀県臓器移植バンクの臓器移植コーディネーターによる移植医療についての新しい講義を実施できた。さらに前年度に引き続き、小城市警察署生活安全課による地域防犯についての講義を継続できた。結果として本学看護学科2年生2名が小城駅周辺の迷子となった男児を保護し、事故を未然に防げたということで小城警察署より表彰を受けて、広報にもつながった。社会人基礎力の養成のみならず、小城市という地域を知り、命の尊さを考え、地域の防犯にも目を向けるという態度や姿勢も身についていると考えられる。</p> <p>「関連職種連携入門」は授業評価の自由記述から、“違う学部がどのようなことを学んでいくのか、どういう仕事なのかを知ることでお互いが理解し合える。” “自分が目指す専門職以外の職種の説明を、実際その専門職である他学科の教員から講義を受けられるのが良かった。”というポジティブな感想が多かった。1年生前期という一番モチベーションが高い時期に講義をすることはメリットが大きいと考えられた。また、それを非常勤ではなく、本学内の教員（他学科の教員と連携）で全コマ開講できることは西九州大学の売りとしてアピールできると考える。</p> <p>看護学部におけるTeams活用の現状については、導入当初と比較して、教員もTeamsの操作に慣れてきたため活用が普及してきている。しかしながら、新任教員に誰がどこまで説明を行う役割を担うかという点が課題である。この点については本学の情報システム室との連携が主になると思われるが、ポータルサイトやbudget、デスクネットを含めて、情報システム室担当範疇の明確化と担当部署を明確に本学での共有化についても進めていく必要がある。</p> <p>その他、SWOT分析の継続と課題となった項目に対し、教員および委員会が年度の活動目標に配慮して盛り込むなどその対策と実施主体の具体化を行い、各委員会及び教職員の年度目標・行動目標に上記の内容を具体化し、組織全体で実施に向け取り組むことができた。</p> <p>大学院においては、文科省より認可を受け、令和4年度4月より開設することができ、入学生3名を受け入れることができた。しかしながら、1学年5名の定員充足には至っておらず、今年度も次年度の入学定員充足を目標に、遠隔授業等の教育方法および大学院での学修についての公開講座を11月に地域看護研究研修センターの事業として行い、入学生の確保につなげた。また、学部教育を担当する教員が大学院の講義も担当している現状について、学部の実習時期に入ると担当教員への負担が増える現状は継続している。実習施設への大学院広報活動はパンフレット配布や、必要に応じて施設への説明なども実施した。尚、退職者に伴う科目担当者のACの結果は問題なく認可された。</p>	8

	<p>【1-4 研究活動への反映】</p> <p>◎教育・実践・研究活動の成果を関係学会および本学部紀要で発表・論文投稿を目指し、研究実績をあげ、かつ看護教育へ反映させる。</p> <p>①計画的な研究活動ができるよう、科研費獲得を行い、地域・社会貢献となる研究活動を関連領域の教員・地域の関係機関との連携により計画し、活動する。</p> <p>②実習指導ガイドラインにそって、臨地実習指導等の時間・指導体制の調整・連携により、教育の質の担保を図りつつ、指導体制の充実を図り、研究活動の時間を捻り出す。</p> <p>③研究力の向上を図るFD研修等を行い、研究費獲得に向け、各教員が個人または共同で計画を検討し、80%の申請を目指し、個人や他大学との組織的な研究に発展させ、また、プロジェクト研究を視野に置き研究開発を目標とする。</p>	<p>【1-4 研究活動への反映】</p> <p>研究成果を関係学会での学会発表および論文投稿を目指し、各自、活動している。各領域から1編以上の目標は達成できなかったが、研究報告1編を西九州大学機関リポジットリの搭載できた。また、「大学が進める研究」の一部として「発達障害を持つ子どもと親への支援システムの構築と検証」について研究を進めている。</p> <p>科研費助成獲得に向け、各教員が個人または共同で計画を検討し、R4年度に申請する目標値(応募率)を80%としていたが、62.1%にとどまった。応募件数の内訳については、新規12件、継続6件で合計18件であり、前年度(R3年度)の応募率53.8%を上回っていた。看護学部では、スタート支援の2件が採択された。また、西九州大学全体での応募件数は63件中、採択件数はわずか3件と大学全体での採択件数は低迷していた。今年度は、人事の削減ならびに教育体制の構築がはかれて、研究時間の確保について支障が生じていた。しかしながら、外部資金獲得に対する研究意識も看護学部内でも高まってきており、以上のこともふまえ、今後も応募率の目標値を定め、科研費獲得に向けて、意識づけを継続していく。</p>	7
	<p>基準2. 学生</p> <p>《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</p> <p>【2-1 学生の受入れ】</p> <p>◎入試広報活動の継続と高校訪問、進路ガイダンス及び大学ホームページによる情報発信の充実をはかり、入学者の定員確保および質の確保に努める。</p> <p>◎令和5年度学生募集は、福岡県に開設予定を含め競合校が増えるため、九州全域の学生確保がさらに厳しくなる。本学部の教育課程の充実と小城キャンパスのメリットを活かした学生募集について、SWOT分析の振り返りを参考に教員の智慧を最大限に生かした発想を実現化する。</p> <p>①オープンキャンパスへ学生および卒業生の参加を計画し、1年生および先輩学生・先輩看護師等の参加により、入学者のニーズに対応し、身近で分かりやすく興味が持てる内容でPRする。</p> <p>②保護者へ学生の大学での学びを理解し、本学へ関心を寄せていただくために、看護学部の活動を紹介するパンフレット「学部通信」の作成や学生生活・授業等のできごとをホームページ「学部・学科のお知らせ」の情報を更新し、情報発信する。</p> <p>③入試広報委員のほか、オープンキャンパス担当教員4名配置し、全教員の協力の下、ホームページ等の広報に動画やSNS等の工夫を凝らし、受験生や保護者等のステークホルダーに対し、情報発信し、入学生の確保に向け、本学をPRし広報活動を強化する。</p> <p>④高校訪問・進路ガイダンス・公開講座等の依頼はすべて受け入れ、広報活動を全教員協力体制で継続し、本学の特徴・就職状況を含めた地域貢献、教育内容・キャリア開発・大学院等について情報発信し、佐賀県全域に広報する。</p> <p>⑤一般入試内容として2科目選択は継続する。合否判定の基準を継続して検討し、国家試験合格率に反映する入学生の確保および質の確保を図る。</p> <p>【2-5 学修環境の整備】</p> <p>◎臨地実習施設は、佐賀県及び福岡県・長崎県と県域をまたぐ広範囲にわたっている。また、COVID-19の関係から、学生の受け入れ人数の制限を受けているため、実習指導に当たる助手を含めた専任教員だけでは対応できない。非常勤実習助手の協力を得て、実習施設の協力と連携を図り、指導体制を整備・強化する。</p> <p>①感染予防対策を徹底し、遠隔授業等のICT教育の学修環</p>	<p>【2-1 学生の受入れ】</p> <p>入試広報活動の持続はもとより、長崎県を中心に高校訪問を展開できた。並行して、進路ガイダンス及び大学ホームページの充実をはかり、入学者の定員確保に努めた。オープンキャンパスについては動画の収録とYoutubeへの投稿も積極的に進めていき、オープンキャンパスへの学生参加を計画し、入学者のニーズに対応した。入試広報委員のほか、オープンキャンパス担当教員を4名配置し、ホームページ等の広報に動画やブログを含むSNS等の工夫を凝らし、受験生や保護者等のステークホルダーに対し、情報発信し、本学をPRし、入学生の確保に向け広報活動を強化した。また、大学全体での広報誌発刊に合わせて、看護学部での特集としての広報誌も発行した。</p> <p>R4年度の入試合否判定については、看護学部のブランド化も勘案し、共通テストの合格基準を前年度の合格得点率50%から、今年度は55%に引き上げ、入学生の選抜について見直しを実施した。</p> <p>結果的には、看護学部における今年度の入試志願者数と受験者数は前年度と比較し、減少傾向を示したもの、6年間の手続き率の推移をデータで見ると、一般I期・共通テストでは、H30年度41.4%、H31年度39.0%、令和2年度45.5%、令和3年度31.8%、令和4年度40.8%、令和5年度は48.8%と上昇傾向にある。志願者数の低迷はあるものの合格者の手続き率が年々上昇してきていることから、今後は一般I期や共通テスト利用志願者数確保に努めていくとともに入学者割合の高い推薦入試(年内入試)の合否判定に関わる基準を見直していく必要がある。</p>	9
		<p>【2-5 学修環境の整備】</p> <p>これまでの看護学部の課題であった実習施設の確保について、成人看護学実習で1施設(志田病院)、老年看護学実習および関連職種連携実習で1施設(うえむら病院)、看護管理実習で1施設(志田病院)、看護過程論実習で1施設(柳川リハビリテーション病院)、小児看護学実習で1施設(国立佐賀病院)および保育所2施設、幼稚園2施設の合計10施設が開拓できた。このことに伴い、実習指導に当たる専任教員のみでは対応できないため、7名の非常勤実習助手の</p>	10

<p>境を整備し、効果的な授業・臨地実習・学内実習の多様な教育形態を継続する。同時に新任教員のオリエンテーションを徹底する。</p> <p>②実習施設と大学を結ぶ遠隔授業の方法の受け入れ施設を関係領域と情報委員会と連携・拡大し、実習内容のさらなる充実および教育内容・方法の共通理解を深め、実習施設との連携協働の強化を図り、指導体制を整備する。</p> <p>③小城キャンパスに近い実習施設の開拓を関係領域・実習委員会等と連携して行い、実習施設の拡充を図り、学生・教員の負担を軽くするとともに、組織の協力体制を強化する。</p> <p>○実習指導のポイントおよび指導体制の調整について、FD研修や実習施設との研修会や協議会の機会を活用して、実習指導のあり方を検討する。</p> <p>①実習指導時間の削減のために、どこにポイントを置いて実習指導を行っていくか、実習施設・指導者との調整し、実習指導における課題などを検討する。</p> <p>②令和4年度、2期生の看護師国家試験は、100%の合格率を目指とする。特に県内の就職率を向上し、加えて、入学の確保にもつなげる。</p> <p>①看護師・保健師国家試験対策はクラス全体・個別の学修指導を委員長・サブリーダーを軸とする国家試験対策委員会・各委員会・チューター等の支援体制を強化し、低学年からの学力向上にも取り組む。</p> <p>②チュータ制度を継続し、多様な課題を抱えている学生支援を継続し、学生の心身の安定を図る。4年次はチューターで就職等の相談・支援を継続するが、4年次関わる看護研究ゼミナール担当教員も連携しながら就職・国試対策の支援を行う。</p> <p>③学生支援委員会の中に准教授以上でチューター主任を置き、担当学年の把握・指導につなげ、教員の協力体制で学生を支援する。</p> <p>④あすなろう（初年次教育）の担当教員はチューター担当が一致するように全教員で協力体制をとり、学生の成長促進のため支援する。また、新入生の学生生活や学修方法に対する助言を先輩学生の協力を得られる機会を必要時設け、学生間の交流および学修支援の連携を図る。</p> <p>⑤国家試験対策のWebサービスの活用を推進するよう働きかけ、継続する。また、3年次・4年次の国家試験対策・模擬試験等の年次計画の実施及び教員の支援体制など学修環境として強化し、チューター協力や臨地実習時の国家試験対策を意識し、全教員協力体制をとる。</p> <p>【2-6 学生の意見・要望への対応】</p> <p>○看護学部の発展を支えるために、学生の意見・要望を適宜アンケート・意見箱等で把握し、意見・要望に真摯に対応できる体制づくりを整備する。</p> <p>①授業に対しては、授業評価を実施し、学生のニーズに沿った授業形態を工夫する。</p> <p>②シラバスにそって履修指導を強化し、学修不良学生のチェックを早期に行い、受験失格などないよう、履修状況を改善し単位取得ができるようにする。</p> <p>③学修不良な学生の支援を適切な時期に面接等の修学指導を行い、2年次、3年次の進級判定において原級留め置きの学生を出さないように支援する。</p> <p>④感染予防対策の徹底を継続し、実習施設および指導者と教員の連携・調整と協力を図り、学生へ周知し臨地実習環境を整え、臨地実習指導体制の充実を図る。</p> <p>⑤学生による授業評価や学科内に設置している学生意見箱の意見等には真摯に対応し学内で共有し、改善に向け検討する。</p>	<p>協力を得て、指導体制を整備・強化した。</p> <p>しかしながら、唐津、鹿島をはじめ、遠方の実習施設に対し、これまで、学生から実習に係る宿泊確保が困難であること、また、予期せぬキャンセル料を支払うことに対する経済的負担の声が寄せられており、看護学部でも懸案事項であった。</p> <p>そこで、今年度は予算化を検討し、試験的に学生宿泊費の支出が実現できた。その結果、実習前に学生自ら宿泊施設を予約する手間が省けることなどから、学生の満足度が高かった。今後の方向性として実習に関わる宿泊調整については当該領域担当と事務担当といった役割分担を明確にし、情報共有をすすめていくべきながら次年度の条件やルールに基づいた予算化を検討していく必要がある。また、宿泊調整については、当該領域担当者及び助手で協力して手続きをすすめていく方向性で検討していく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の増加による実習施設受け入れ中止も、前年度に引き続きみられた。そのため、遠隔授業の継続および臨地実習の代替として学内実習に変更し、遠隔授業等のICT教育による設備を整備とともに教員のスキルを強化し、学修環境を整備し対応できた。</p> <p>臨地実習に伴うPCR検査と抗原検査においては、学部内で予算化できた。また、これに加えて、令和4年度は11月より令和5年3月まで、急遽、佐賀県による看護学生等現場実習円滑化事業の助成が行われたことで、無料で実施できた。</p> <p>新型コロナワクチン接種は学部の全学生・教職員の接種率を上げる努力を早期に行い、感染対策による安全な学修環境と学生の慎重な行動を継続する指導を行い、さらなる感染予防対策の徹底を継続できた。今後も、看護学部の実習受け入れにはワクチン接種が必要となることについての啓発を行う。</p> <p>令和4年度、2期生の看護師国家試験・保健師国家試験は100%合格を目指とし、国家試験対策はクラス全体・個別の学修指導を国家試験対策委員会・各委員会・チューター等の支援体制、教員補講を強化した。また、国家試験対策のWebサービスの活用を促進するよう働きかけ、継続した。</p> <p>3年次・4年次の国家試験対策・模擬試験等の年次計画の実施及び教員の支援体制など学修環境として強化し、特に保健師国家試験においては、100%に近い合格率を達成した。</p> <p>保健師国家試験合格者数 (96.7%) 看護師国家試験合格者数 (94.3%)</p> <p>さらに、チュータ制度を、令和4年度も継続させ、多様な課題を抱えている学生支援を継続させ、学生の心身の安定を図ることを目指した。4年次はそのままのチューターで就職等の相談・支援を継続できた。</p> <p>【2-6 学生の意見・要望への対応】</p> <p>学生の意見・要望について、適宜アンケート等で把握し、意見・要望に真摯に対応できる体制づくりをすすめていたが、コロナ禍で学生と教員のコミュニケーション不足もあり実習指導や教育指導についての意見が散見されていた。そのため、詳細な情報内容や事実確認について把握困難であったため、学科長より各学年の講義終了時などに説明を行い、意見箱へ投函などを改めて促し、その回答に対して教務委員会を通じて審議を進め、回答を行った。</p> <p>その他、授業に対しては、中間評価を実施し学生のニーズに沿った授業形態の工夫を行い、さらにシラバスにそって履修指導を強化し、学修不良学生のチェックを早期に改善し単位取得ができるようにした。</p> <p>学修不良な学生に対しては、早めのチューターからのアプローチと介入をチューター教員へ促し、支援を適切な時期に行なったが、2年次、3年次の進級判定において数名の原級留め置き学生を出す結果になった。</p>
---	--

<p>◎駐車場の確保については、学生の状況より、小城市及び地域の代表者・機関との話し合い等を踏まえ、1学年相当分(40台前後)の駐車台数を同公園駐車スペースに当てさせて戴くべくルールを遵守し、学生指導を徹底し、実験実証的に行わせて戴く。これによる課題等を地域の代表者・関係機関へフィードバックしていく。</p> <p>①「大学と連携した小城市まちづくり協議会」を通じて、前記課題等を含め地域住民へ大学と地域とのつながりをアピールし、地域との連携(理解・協力)を深めていく。</p> <p>②近隣の幼稚園・小学・高校の責任者との駐車場関連の行事・イベント時の協力・調整の協議を継続する。</p> <p>③学生の駐車場利用のルールを各学年の利用学生へ徹底指導する。</p> <p>○小城周辺のワンルームマンション建設の実現の課題は関係機関と連携し、学生の安心安全な住まいの確保実現に向け、側面的対応を行う。</p>	<p>学生駐車場の確保については、これまでの小城市及び地域の代表者・機関との話し合い等を踏まえ、1学年相当分の駐車台数を同公園駐車スペースに当てさせて戴くべく、地域の小城高等学校、桜岡小学校、ルーテル教会幼稚園等と、定期的な会合を持ちルール化を図り継続できた。</p> <p>「大学と連携した小城市まちづくり協議会」を通じて、前記課題等を含め地域住民との連携(理解・協力)を深めた。</p> <p>看護学部地域看護研究研修センターの活動として、大学院広報を目的とした公開講座を実施した。</p> <p>助産専攻科の設置については、佐賀県へのニーズを確認したところ、佐賀県の現状として助産師および養成所は不足しているという現状ではなく、ニーズは低いことが確認できている。また、実習施設の確保が困難であるという状況もある。</p> <p>前年度に引き続き、西九州大学同窓会長と連携してワンルームマンション建設(本学部女子学生専用)の実現へ向けて側面的対応を行い、マンションの建設の用地確保について検討をすすめている。一方、地域には一人暮らし用の物件が増えている現状である。</p>
<p>基準3. 教育課程</p> <p>《卒業認定、教育課程、学修成果》</p> <p>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</p> <p>◎単位認定・進級判定において、昨年度の総括をもとに、学生自身の自覚を高め、ガイダンスを徹底する。成績不良学生に対して、チューター・科目責任者、各学年に応するチューター主任・保護者等の協力により、改善が図れるよう適宜、面接を行なながら学修指導および支援を実施する。また、非常勤講師及び専任教員の教科目の教育課程・教授方法・試験・追再試験・評価等の見直し・調整を図る。</p> <p>①第5次改正カリキュラムと旧カリキュラムが並行する履修の履修指導を徹底し、順調に進める。</p> <p>②各委員会の総括を教育および大学運営の目標達成に向けて方策を立て、自己点検自己評価に活用し組織的に取り組む。</p> <p>◎令和4年度開始の新カリキュラムと旧カリキュラムと並行する教育課程が本学部の特徴を出し、問題なく円滑に進行するよう、教務委員会・実習委員会と連携し、教員の協力のもと調整を図る。</p> <p>○大学に近い実習施設の開拓を行い、学生・教員の負担を軽くする。</p> <p>①再履修者の不利益が生じないよう読み替えを確認し、ガイダンス等を徹底し、時間割等の調整・単位履修の周知に努める。</p> <p>②令和5年度の臨地実習配置計画は学生数増加に伴い、新規実習施設の開拓等を行い、実習施設との調整・協議を行い、5年度の実習配置計画を完成させる。</p> <p>③実習施設と大学を結ぶ遠隔授業の方法の活用を拡大し、実習施設との連携・共同の強化を推進し、実習内容・指導の充実を図るために、実習施設・指導者と調整し、実習指導における課題などを検討する。</p> <p>○講義・演習はじめ、臨地実習に関して、新型コロナウイルス感染対策を徹底するとともに実習施設との調整を行い、学内実習においても実習施設との遠隔授業を活用し、学修環境を整え、目標達成するよう教育方法の工夫に努める。</p> <p>◎4年生全員が卒業・国家試験に合格するよう、国試対策委員会と学生支援委員会・関係委員会等による就職対策および国家試験対策を強化しながら、4年次の看護研究ゼミナー・臨地実習・保健師課程実習・養護教諭教育実習等の指導・支援を科目責任者・担当者およびチューターとともに協力して支援する。</p> <p>【3-2 教育課程及び教授方法】</p> <p>◎Teams等の遠隔授業・ICT教育の推進を円滑に行い、かつ、</p>	<p>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</p> <p>単位認定・進級判定において、前年度の総括をもとに、学生自身の自覚を高めるために、前期・後期のガイダンスを徹底した。成績不良学生に対して、チューター・科目責任者、時にチューター主任・保護者等の協力により、改善が図れるよう適宜、面接を行なながら学修指導および支援を実施した。また、非常勤講師及び専任教員の教科目の教育課程・教授方法・試験・追再試験・評価等の見直しと、領域間での調整を図り、評価に関する学生の不服申し立てに対し、関係教員が対応した。</p> <p>教務委員会で学年進度や時期の調整、単位読み替えの準備を行い、実習配置計画やオリエンテーション等の調整など実習委員会と連携し、教員の協力のもと調整を密に図った。</p> <p>講義・演習はじめ、臨地実習に関して、新型コロナウイルス感染対策を徹底するとともに実習施設との調整を行い、学修環境を整え、学内実習においても目標達成するよう教育方法の工夫に努めた。感染状況は極力抑えることができたが、公欠者等の対応では、追試験・追実習で補い履修できた。</p> <p>卒業研究は、看護研究ゼミナールとして88名の抄録集を冊子として作成し、</p> <p>発表会を国家試験終了後に企画し、4年生全体を4つのセッションに分け、学会発表形式で実施した。当日欠席者の3名については、欠席者を対象に少人数で別日を設けて発表会を行うことができた。今後の卒業研究発表会の方法については、教員間で、各領域ごとに行なうことが望ましいなどの意見もあったため、発表会修了後に教員および学生にアンケートを実施した。その結果、今年度のように学会発表形式で国家試験終了後に実施されることを希望した数が多かったため、今後も同様の方法で進めていく予定である。</p> <p>【3-2 教育課程及び教授方法】</p> <p>前年度より継続している遠隔授業のTeamsへの変更を1</p>

<p>授業評価に対する教員の評価・コメントと改善に向けた対策をもとに教授内容・方法の改善を図り、学生の理解を深め、満足感を高める。</p> <p>①新入生・低学年の ICT 教育による学修方法が習熟できるよう、情報委員会と教職員が連携・協力し指導を徹底する。</p> <p>②基礎・専門基礎科目等の成績が向上するよう、入学前教育・IR 結果を活用し、学修指導等を科目責任者・教務委員会・チーフターの協力により組織的に支援する。</p>	<p>年次生から円滑に行い、後期は2・3年次へと移行した。</p> <p>授業評価に対する教員の評価・コメントと改善に向けた対策をもとに教授内容・方法の改善を図り、学生の理解を深め、満足感を高めた。</p> <p>看護学部における Teams 活用の現状については、導入当初と比較して、教員も Teams の操作に慣れてきたため活用が普及してきている。しかしながら、新任教員に誰がどこまで説明を行う役割を担うかという点が課題である。この点については本学の情報システム室との連携が主になると思われるが、ポータルサイトや budget、デスクネットを含めて、情報システム室担当範疇の明確化と担当部署を明確に本学での共有化についても進めていく必要がある。尚、次年度は、委員会活動のスリム化を図るために情報委員会を廃止し、実習委員会での情報関連についての役割を明記していくこととする。</p> <p>また、パソコン（PC）について、今年度は「データサイエンス演習」（1年生）の講義を進めるにあたって、学生が持っている PC に、Windows と Mac が混在し、Mac 版の office では操作手順が異なり、中には対応していない機能がみられた。基本的な PC 操作ができる学生ばかりではないので、余分に時間がとられ、授業の進行に支障をきたすという問題が生じた。他大学の情報では、福岡工業大学や九州工業大学といった情報を専門に学ぶ学部でも「講義・演習は Windows を基準とするため Mac は推奨しない」と案内されている現状である。本学を卒業して求められるスキルや、卒業後実際に操作する PC 環境を考えても、本学で学生に購入してもらう PC は「Windows のみ」に限定しても良いのではないかと考えられたので、今後の課題提起としていく。</p>
<p>【3-3 学修成果の点検・評価】</p> <p>◎3P が反映した学修成果の点検・評価について、4 学年の教育課程の達成状況、学習成果の自己評価等を把握し、評価する。</p> <p>①学修成果においては、国家試験対策における模擬試験結果等と関連し、修得状況を把握し、参考にする。</p> <p>②3 ポリとの関連がつながっている学修成果の点検・評価を各教員が科目及び臨地実習において、目標や評価等の点検およびシラバスチェックを行い、修正・点検し、シラバス内容および授業内容・方法・評価（試験）の実施状況が改善できるようする。</p>	<p>【3-3 学修成果の点検・評価】</p> <p>R6 年度より全学において新しい学位プログラム「デジタル・コミュニケーション学環（情報メディアコース）」が副専攻としてスタートする。これに先立ち、看護学部でも、ディプロマポリシーとディプロマポリシーに沿った学修成果の評価項目（ディプロマサブリメント）と整合性について点検を行ったところ、整合性がとれていない点と文言や表記内容が学生にとって分かりづらい内容であった。そこで、今年度は、看護学部のディプロマポリシー策定の見直しとディプロマサブリメントとの整合性を教務委員会を中心に学科内で修正できた。その上で、ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの 3 つのポリシー、いわゆる 3 ポリ（3P）との関連がつながっている学修成果の点検・評価を各教員が科目及び臨地実習において、目標や評価等の点検を行い、シラバス内容が改善できるようシラバスチェックを行い点検できた。</p>
<p>基準5. 経営・管理と財務</p> <p>«経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計»</p> <p>【5-1 経営の規律と誠実性】</p> <p>◎前年度に引き続き、「ノー残業デー（水曜日）」実施や、計画年休の取得など「働き方改革」について、各自の意識を高め、さらに励行の周知・徹底を図り、休息をとり、メリハリのある就業とし、組織的に活力ある活動につなげる。</p> <p>◎引き続き、佐賀県取組「夏のクールビズ宣言事業所」「冬のウォームビズ宣言事業所」であることからも、職場における適切な空調温度管理（原則室温：夏 28°C、冬 20°C 設定）、エコスタイル（夏クールビズ、冬ウォームビズ）対応について、励行の周知・徹底を図る。</p> <p>新年度は、学生数の増加も考えられ、光熱水量等の使用や教育環境整備にかかる経費増になる可能性は高いが、加えて最近の世界的エネルギー情勢（=ウクライナ情勢/価格高騰）に対し、工夫を重ね、極力経費節減の協力要請を行っていく。</p>	<p>【5-1 経営の規律と誠実性】</p> <p>「ノー残業デー（水曜日）」実施や、計画年休の取得など「働き方改革」については今年度も継続し、さらに励行の周知・徹底を図り、計画年休は年度末によく実施できた。また、入試オープンキャンパス、学校見学会、QSP オーケンシングなどの学校行事は休日に行われることが多く、これらの休日出勤に対して、今年度より教員の代休消化が可能となり、実施できた。</p> <p>また、本学が「夏のクールビズ宣言事業所」「冬のウォームビズ宣言事業所」であることからも、職場における適切な空調温度管理（原則室温：夏 28°C、冬 20°C 設定）、エコスタイル（夏クールビズ、冬ウォームビズ）対応について、励行の周知・徹底は今年度も継続して実施できた。</p> <p>併せて、学生数の増加などに伴う光熱水量等は使用増になる可能性は今年度も予測でき、極力経費節減の協力要請を行い、節減をすすめることができた。</p>

		当該委員会 達成度集計	73/90
		達成度平均点	81/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、（ ）内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
全学教務委員会 (委員長)	<p>◎全学的マネジメントの体制強化 【到達目標】 ・企画委員会、学部長会議での全学教務委員会の情報発信と各学部との連携を強化する。</p> <p>◎共通教育科目の見直し 【到達目標】 ・改定した共通教育科目を令和4年度よりの円滑な実施を目指す。</p> <p>◎学士力到達度を測るための到達度の可視化 【到達目標】 ・学士力到達度を測るためのカリキュラムマップと到達度の可視化については、実施率80%を目標に実施する。</p> <p>○教育・研究の地域志向化を見据えた教育内容の整備 【到達目標】 ・本学の強みと地域志向を踏まえたデータサイエンス科目を全学部での実施を目指す。</p> <p>○3キャンパス教務課との連携 【到達目標】 ・定期的に連絡を取り合いながら、各キャンパスで受講できるような授業実施運営に向けて検討を行う。</p> <p>◎リメディアル教育のあり方の検討 【到達目標】 ・更なるリメディアル教育の充実について検討し方向性をまとめる。</p> <p>◎高大連携教育の推進 【到達目標】 ・佐賀清和、佐賀学園及び龍谷高校との高大連携事業の更なる活性化に向けて検討する。</p> <p>○休学・退学調査と対策 【到達目標】 ・調査・分析結果を全学的に検討し、対策をとりまとめる。</p> <p>◎高等教育の負担軽減に向けた方策について円滑に進めていく。また、出席管理の電子化100%を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教務委員会にて審議・報告した後、各学部教授会へ上申し、学部長会議での審議及び情報の発信・共有を実施している。 改定した共通教育科目（データサイエンス科目、SDGs科目、外国語科目及びスポーツ科目等）について、円滑に実施することができた。 実施率80%を目指したが、全体で49%程度であった。学生たちが理解しやすい教育に関する基本方針等の記載に向けて、段階的に修正を進めており、ディプロマ・ポリシーの見直しを実施した。 全学部でデータサイエンス科目を実施した。実施体制を見直し、教務委員会の専門委員会として「数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討部会」を設置した。 毎週水曜日の共通教育科目等を遠隔授業で実施した。また、事務的には、学内LAN上で教務部「共通フォルダ」の中に各業務マニュアルの整備を実施した。 各学科においてIRT診断テストまたはブレイスマント・テストを実施した。結果の取り扱いなどを含めて検討した結果、R5年度からリハビリテーション学部では実施を取り止めることになった。 コロナ禍のため活発にとはいかなかったが、佐賀清和高校とのボルタについては約180名もの参加があった。QSP健康ウォークについても、ボランティアとして31名に参加いただいた。 R4年度は未実施。 高等教育修学支援新制度に係る事務手続きについては円滑に対応している。要件となる出席状況については、ICカードリーダーあるいは科目担当教員によるポータルサイトからの入力により、システム上で適切に管理している。 	9 9 7 8 7 7 8 0 9
		当該委員会 達成度集計	64/90
		達成度平均点	71/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、（ ）内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x / 10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
共通教育 運営委員会 (委員長)	<p>◎共通教育科目の見直し 【到達目標】 改定した共通教育科目を令和4年度よりの円滑な実施を目指す。</p> <p>◎リテラシーレベルのデータサイエンス科目および SDGs 科目の更なる充実を目指す。</p>	<p>改定した共通教育科目（データサイエンス科目、SDGs 科目、外国語科目及びスポーツ科目等）について、円滑に実施することができた。</p> <p>全学部でデータサイエンス科目を実施した。また、実施体制を見直し、教務委員会の専門委員会として「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム検討部会」を設置した。</p>	9
		当該委員会 達成度集計	18/20
		達成度平均点	90/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、（ ）内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x / 10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
教職課程 委員会 (委員長)	<p>◎各学科における教職課程科目的円滑な実施 【到達目標】 ・定期的に打ち合わせ、会議を実施する。</p> <p>◎令和4年度における「教職課程自己点検・評価」を行い、報告書の作成を行う。</p> <p>○教職履修カルテを積極的に活用する。</p> <p>○教職センターとの更なる連携を図る。</p> <p>○市町村教育委員会および県教育委員会との連携を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学部・学科において、例年同様の時期に打ち合わせや諸会議を実施した。 <p>◎大学院教職課程委員会と連携の上、教職課程自己点検・評価を実施し、報告書を作成した。</p> <p>○履修科目の追記・作成を行い、各学科で活用を進めていく。</p> <p>○委員会と教職センターとの連携は十分に深まらなかつた。</p> <p>○佐賀市教育委員会および神埼市教育委員会との教育実習に関する申し合わせ事項を確認し、実習生の受入れをしていただいた。</p>	7 10 6 5 7
		当該委員会 達成度集計	35/50
		達成度平均点	70/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
学生支援委員会 (学生支援部長)	<p>◎経済的支援の継続 コロナ禍は続くため、経済的困窮学生等に対する奨学金（JASSO 修学支援制度等）情報を適宜提供し、学生が滞りなく申請できるようにしていく。</p> <p>◎学生生活支援 • 駐車場 申請手続者数を増やす取り組みとして、在学生向け前期ガイダンスで依頼、新入生にはオリエンテーションで依頼し、定期的にポータルサイト等で申請を促し続ける。 • 新型コロナウィルス感染症は、まだまだ続くため、関連する情報で必要な情報を適宜配信し、学内での感染予防に努める。</p> <p>◎障がい学生支援 • 障がい学生支援室運営委員会と連携、情報共有と課題について協議しながら、今後必要な支援等について検討していく。</p> <p>◎学生相談 • UPI を実施、学生相談室（CS）と連携し、配慮が必要な学生の実態把握、支援内容の検討を行う。</p> <p>◎学友会関連 • 学友会と連携し、学友会活動が活動しやすいように、そして、より活性化していくように学友会室などの充実をする。 • 学園祭実行委員と学友会がうまく連携し、活発な学園祭となるようにサポートしていく。令和4年度も学園祭ができないようであれば、別途企画について協議していく。 • サークル棟建替えに向け、学友会と意見交換しながら将来計画を検討していく。 • コロナ禍が継続するため、サークルが活動しやすいように、サークル・学友会と連携し、意見交換しながら進めていく。</p> <p>◎学生食堂 • リニューアル後の利用状況を確認しつつ、西九大サポートとより良い学生食堂の運営について協議していく。</p> <p>◎学生就職支援 • 就職支援 学生の就職ニーズに併せた就職支援を行い、一般企業等の求人開拓を行うことと、コロナ禍で出来る就職支援を検討する。</p> <p>• インターンシップ インターンシップ情報の発信方法等について検討し、学生</p>	<p>日本学生支援機構奨学金は、給付・貸与合わせて 1531 人採用。内訳は延べで、給付 299 人、貸与（一種）598 人、貸与（二種）634 人だった。 今年度は売店共通券や学食利用券を支給して経済的支援をおこなった。配布率 76%、利用率 94%だった。</p> <p>ポータルサイトでの駐車場利用に関するアナウンス、不定期での違反駐車チェックを行い、違反者には申請させ、駐車場管理をおこなった。</p> <p>コロナ禍については不定期での注意喚起、長期休暇前の注意喚起など、学内でのパンデミックなどは起こらず、ある程度の感染予防が徹底できた。</p> <p>障がい学生支援室運営委員会で問題点を現段階で抽出はおこなったが、引き続き検討が必要な状況である。</p> <p>3 月前期ガイダンスはUPI を対面実施、9 月後期ガイダンスは web で実施した。web 回答率も 84%で多くとれ、学生相談室へ情報提供し、学生の実態把握をおこない、支援が必要な学生に対して必要な支援がおこなえた。</p> <p>やっと学友会室に学生が集まり、サークル活動等の支援について協議していくような環境が出来たが、SSP 構想の一環で学友会室の移転の話が持ち上がり、2023 年度に別途検討が必要となった。</p> <p>2 年越しの学園祭が開催できた。1・2 年生を中心の実行委員で学友会と学生支援課から多くのサポートをおこない、以前の学園祭と比べても見劣りしない内容であった。</p> <p>学友会室が落ち着き、新しいサークル棟について話をしても検討するまでに至らなかった。</p> <p>新入生オリエンテーション時に学友会と各サークルが協力して勧誘活動をおこない、100 名程度新入部員が入った。</p> <p>ポータルサイトにて日替定食のメニュー掲載を開始、メニュー改善、学食利用券の配布も功を奏し、コロナ禍による利用者減と比べて多くの学生が利用した。</p> <p>ポータルサイトのみならず、メールにて各学科にそった佐賀県の求人情報を定期的に配信し、佐賀県内就職率アップに貢献するとともに、大学に届いた求人情報への関心アップによる就職内定率向上に取り組んだ。</p> <p>ポータルサイト等による情報配信により延べ 11 名がインターンシップへ参加した。</p>	9 6 8 3 9 7 9 3 9 9 8 8

	<p>の就職支援の一環としてインターンシップ参加者を増やせるように努める。</p> <p>◎学生生活実態調査を行い、改善項目を整理し、教授会等で報告を行うことと、IR室と連携しながら分析をおこなう。</p> <p>◎卒業生に対するアンケート調査を実施し、その情報を在学生にフィードバックしながら、将来を見据えた意識改革を行う。</p>	<p>後期ガイダンス時に調査をおこなうことができ、結果として78%の回答が得られた。IR室と情報共有して分析してもらうようにした。</p> <p>就職支援で求人情報等の配信する際にアンケート情報を活用しながら、支援につなげた。</p>	8 3
		当該委員会 達成度集計	99/140
		達成度平均点	70/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラム

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
入試広報 委員会 (委員長)	<p>◎入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>【到達数値目標】</p> <p>①入学者数：540名 ②志願者数：950名 ③OC 参加者数：全体 1,500名 (うち生徒数 900名)</p> <p>◎【募集広報の範囲、対象、方法の再構築（継続）】</p> <ul style="list-style-type: none"> マスメディアおよび動画を活用した広報戦略の検討と実施 定員充足を目的とした入試制度の検討（継続） 	<p>◎入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>【数値目標に対する結果】</p> <p>① 入学予定者数：483名(3/9 現在) ② 志願者数 806名(3/9 現在) ③ OC 参加者数<延べ数> (学校見学会含む：全体 1595名(うち生徒数 933名))</p> <p>◎【募集広報の範囲、対象、方法の再構築】</p> <p>コロナ禍によるオープンキャンパス参加者減を補完するため学校見学会を複数回実施し、新たに大学・短大部・専門学校合同のオープンキャンパスを9/23に開催した。</p> <p>・学科紹介のためのVR動画を作成し、西九州大学グループオープンキャンパスでゴーグルを参加者へ配付し視聴させた。</p> <p>・志願者増を目的として一般選抜における選択科目を全学科統一した。 ・国公立大学後期試験合格発表後に出願可能な大学入学共通テスト利用選抜を新たに追加した。</p>	6 7 7 7
		当該委員会 達成度集計	27/40
		達成度平均点	68/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x / 10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
図書館 (委員長)	<p>◎ 図書館の整備充実 【到達目標】</p> <p>①神埼キャンパス及び佐賀キャンパスの図書の整理及び3キャンパスにおける図書収容能力の確保（継続）</p> <p>②機関リポジトリの積極的な活用の周知（継続）</p> <p>③小城キャンパス分館の設置計画に基づく整備（継続）</p> <p>④多目的室のラーニングコモンズ機能の充実・活用（継続）</p> <p>⑤3キャンパスの図書館業務の連携等の促進及び予算の計画的な執行に関する意見収集など図書委員会の機能充実（継続）</p>	<p>① 神埼キャンパスにおいて 68 冊、佐賀キャンパスにおいて 172 冊、小城キャンパスにおいて 53 冊（大学 293 冊、短大 38 冊）の図書等の除籍を行い、収容能力の確保を図った。なお、除籍処分を行った資料については、古本募金制度を利用し、大学の収入確保に寄与した。</p> <p>② 学部の紀要だけでなく博士学位論文を掲載するとともに、教材・テキストとして「旬の食材を用いた簡単レシピ」を過去に遡って掲載した。</p> <p>③ 設置計画に基づく整備のうち図書については、開設 1 年目で整備が完了しており、今年度は 667 冊（うち大学院修士課程用 96 冊）を受け入れ、充実を図った。</p> <p>④ 図書館事務室に隣接している多目的室の施解錠及び見回りを図書館で実施し、ラーニングコモンズ機能の一部として利用した。</p> <p>⑤ 各学科図書委員に四半期ごとに当該学科の予算執行状況の周知を図り、予算の計画的執行を促した。</p>	<p>7</p> <p>7</p> <p>9</p> <p>7</p> <p>8</p>
		当該委員会 達成度集計	38/50
		達成度平均点	76/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
リカレント 教育・研究 推進本部 (本部長)	◎地域のステークホルダーとの連携を強化するとともに、QSP事業等の十全なマネジメントを行う。	地域のステークホルダーとの連携強化については、コロナ禍もあり、十分に達成することはできなかった。QSP事業については、規模縮小の上、実施することができた。	7/10
	◎推進本部および、下部3センターの役割分担を明確化し、組織改編への手続きを行う。同時に規程等も整備する。	推進本部および、下部3センターとの合同の委員会を開催し、問題意識を共有化した。組織改編については、意見交換を行ったものの、コロナ禍の影響もあり具体的な作業は見合わせることとした。	7/10
	◎履修証明プログラムを実施する。	履修証明プログラムについては、今期は情報メディアセンターのリカレント教育のプログラム実施に協力をし、本学の履修証明書を実施した。	9/10
	◎健康福祉・生涯学習センターにおける生涯学習事業を伸長させる。	健康福祉・生涯学習センターの生涯学習事業は、順調に実施され、さらに今期からさんこう児童クラブの開催に協力し、事業の幅を拡大することができた。	10/10
	◎産学官連携事業を伸長させる。	産官学連携事業は、外部資金を獲得し、順調に事業を実施した。	10/10
		当該委員会 達成度集計	43/50
		達成度平均点	86/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
国際交流 センター (委員長)	<p>◎地域に生活する人々の生活を科学し実践する教育機関としてのブランドの確立（継続） ・地域住民と留学生の交流を活性化させ、地域一体となってグローバル化を推進する（継続）。</p> <p>この具体的なアプローチは次の通りである。</p> <p>(1) 2022年度QSP事業に継続し申請する。採択された場合、佐賀商業高校との国際協働授業は継続開講する。</p> <p>(2) 短大部の田中知恵教授チームの活動も充実させる（継続事業）。 ①佐賀市（国際課・国際交流協会、観光協会等）との国際交流。地域連携活動（継続） ・企業との協定に基づく連携事業を発展させ、留学生を中心とした生活支援や学外活動を充実させる。</p> <p>②小・中・高校生との国際交流 ・佐賀県内の高校での進学ガイダンスに留学生と参加し、異文化理解を目的とした交流活動・講義を実施する。ガイダンス以外には出張講義や国際交流開連授業、小中学校の授業に留学生を派遣する。</p> <p>(3) スリランカ大使の佐賀訪問（佐賀県、西九州大学、病院・福祉施設、管理団体など）を契機に、5月10日頃の開催を目標に、「アジア健康福祉フォーラム」（仮称）の開催に向けて受入・企画・実施作業に取り組む（新規事業）。</p> <p>◎九州西部地域大学・短期大学連携事業への対応（継続） ・九州西部地域大学・短期大学との連携を通じ、該当地域全体の日本人学生の海外派遣及び留学生受入れをそれぞれ拡大させる（継続）。</p> <p>この具体的なアプローチは次の通りである。</p> <p>(1) 令和4年度QSP事業企画書として、ACC活動を年2回くらい実施する（継続）。</p> <p>(2) 「2022さが国際フェスタ月間」（佐賀県国際交流協会主催）や「2022年度王仁公園わくわくフェスタ」（神埼市主催）などの企画に申請、参加する。</p>	<p>◎地域に生活する人々の生活を科学し実践する教育機関としてのブランドの確立（継続） ・地域住民と留学生の交流を活性化させ、地域一体となってグローバル化を推進する（継続）。</p> <p>(1) 2022年度QSP事業に継続し申請する。採択された場合、佐賀商業高校との国際協働授業は継続開講する。 2022年6月8日と12月7日に佐賀県立佐賀商業高等学校と連携し、外国人留学生と高校生の相互交流プログラムを実施した。合計6名の留学生が参加し、ベトナム・ミャンマー・フィリピン・中国の文化を高校生にプレゼンし、異文化理解に努めた。</p> <p>(2) 短大部の田中知恵教授チームの活動も充実させる（継続事業）。 ①佐賀市（国際課・国際交流協会、観光協会等）との国際交流。地域連携活動（継続） 短大部の田中教授が中心となって実施した「第23回佐賀城下ひなまつり」には10名以上の留学生が参加し、母国の文化紹介や民族衣装の着付け体験を行った。</p> <p>②小・中・高校生との国際交流 短大部の牛丸教授がミャンマー人留学生2名を小城市の三里小学校に連れて行き、交流授業を実施した。小学生は日本の食べ物やダンスを紹介し、ハンカチ落としなどの遊びを留学生と体験した。</p> <p>(3) スリランカ大使の来佐は叶わなかったが、管理団体からの推薦でスリランカ出身の留学生3名の留学生の短大部への次年度の留学を予定している。</p> <p>◎九州西部地域大学・短期大学連携事業への対応（継続） ・九州西部地域大学・短期大学との連携を通じ、該当地域全体の日本人学生の海外派遣及び留学生受入れをそれぞれ拡大させる（継続）。</p> <p>この具体的なアプローチは次の通りである。</p> <p>(1) 令和4年度QSP事業企画書として、ACC活動を年2回くらい実施する（継続）。 前段の(1)を参照。</p> <p>(2) ・10月2日、「王仁公園アジアンフェスタ」（会場：王仁博士顕彰公園）に、ACC（アジアンコミュニティカフェ）として留学生・日本人学生・教員ら15名が参加、グルメブースで手作り水餃子を販売し、大学一地域間交流に貢献した。 ・11月27日、「日中友好の集い」（神埼地区日中友好協会主催）に中国人留学生11人が参加、「体験発表」や「歌謡」プログラムに出演し市民交流に貢献した。 ・7月9日、「長崎短期大学/西九州大学短期大学部とのカヤック交流会」を実施し、本学の学生15名（うち留学生12名）と長崎短期大学の学生10名がカヤック体験</p>	9 8

	<p>◎正規留学生の受入れ及び日本人学生の海外派遣を拡大させ、西九州大学グループ全体の国際化を推進し、激化するグローバル化社会へ対応できる基盤を確立させる（継続）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学、短期大学部ともに毎年度最低10名以上の正規留学生を受け入れる（継続）。 <p>この具体的なアプローチは次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 過去2年間の短大の実績により、エージェント制度は留学生募集のために非常に有効な手段と言える。また、エージェント側も長期的なビジネスとして留学生を選抜する必要があるため、日本語能力をはじめとした一定の質が保証された優秀な留学生を受け入れができる。そのため、大学・大学院でも導入ができるように、引き続き強力に上層部に働きかけていく。 (2) 「河北省ルート」として、令和4年度後期から研究生として本学に留学を希望する学生1名よりすでに問い合わせを受けている。当該学生は研究期間終了後、本学での修士及び博士レベルの学びを目指しており、長期間の留学生の受け入れに繋がてくる可能性が高いため、確実に入学してもらえるように引き続き必要なサポートを提供していく。 (3) 「本学留学生紹介ルート」については、引き続き出身校の後輩や友人に對し、本学への派遣を強く推奨してもらう。 (4) 「短大からの3年次編入生ルート」については、引き続き「学位取得コース」として「大專（中国の3年制大学）」の学生を中心に呼びかけていく。 (5) 「大連ルート」として、令和4年度前期より2名の学部レベル研究生の新規受け入れがすでに確定している。この学生達は研究期間終了後、本学修士課程への進学を希望しているため、本人達の望みを実現できるようにサポートしていくと同時に、令和4年度後期以降の留学生の紹介を追加で行ってもらえるように、引き続き派遣元や学内の関連部局と連携を行っていく。 (6) 貴州民族大学との「学術交流協定締結」により、交換留学生の受け入れに留まらず、同大学が提携する現地の高校や「大專（中国の3年制大学）」への正規留学生募集のためのアプローチが可能となるため、本格的に贵州省ルートを推進していく。 本年3月25日午後2時半（中国時間）より、スポーツ健康福祉学科と体育・健康学院とのオンライン講座が実施される予定（講師は、管原正志副学長、人数は暫定100名）。 (7) 香港の日本語学校との新たな協定により、語学力・経費支弁能力共に高い香港出身の留学生の受け入れが期待できるため、「エージェント」と連携しながら現地の高校を中心に積極的にPRしていく。また、留学生の出口戦略にフォーカスした企画の予算が通れば、早速、事業を開始し、既存の留学生達の就職支援を強化しつつ、その取り組みを可視化することで、次年度以降の更なる留学生の獲得に繋げたい。 	<p>や交流を行った。</p> <p>◎正規留学生の受入れ及び日本人学生の海外派遣を拡大させ、西九州大学グループ全体の国際化を推進し、激化するグローバル化社会へ対応できる基盤を確立させる（継続）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学、短期大学部ともに毎年度最低10名以上の正規留学生を受け入れる（継続）。 <p>この具体的なアプローチは次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 過去3年間、根気強く上層部に働きかけた結果、令和5年度から大学・大学院での導入の道筋がようやく見えてきた (2) 「河北省ルート」として、今年度後期から無事に1名の研究生を受け入れることができた。但し、日本語能力が不足している部分があるため、本人が希望している通り研究生修了後に本学の修士課程に進学ができるように、現在、日本語教育を含めてセンターとしてサポートを行っているところである。 (3) 留学生経由ではないが、日ごろからお世話になっている短大部中国語講師周先生より、本学大学院での学びを希望する中国籍留学生を2名？3名？をご紹介頂き、令和5年度からの留学に間に合うように、現在、関連手続きを入試広報課と協力して進めているところである。 (4) 「学位取得コース」の方向性が定まっていないため、学生募集には繋がらなかった。 (5) コロナ禍の水際対策により、来日が数ヶ月遅くなつたが、「大連ルート」として、令和4年度前期より2名の学部レベル研究生の新規受け入れが予定通り行われた。但し、日本語能力が不足している部分があるため、本人が希望している通り研究生修了後に本学の修士課程に進学ができるように、現在、日本語教育を含めてセンターとしてサポートを行っているところである。 (6) 令和4年5月13日、本学史上初となるオンラインによる形式で貴州民族大学との「学術交流協定締結」が無事に締結され、今年度後期から交換留学生第一号を受け入れているところである。次年度前期から、新しく1名の交換留学生の受け入れもすでに決まっており、交換留学をベースに先ずは双方に信頼を積み上げて、近い将来、当該大学の卒業生の大学院レベルでの正規留学生に繋げたい。 (7) 香港のエージェントである日本語学校が主催する日本留学オンラインフェアに参加して、本学の認知度を一定数高めることには貢献できたが、留学生の受け入れには繋がらなかった。しかしながら、語学力・経費支弁能力が共に高い香港出身の留学生を受け入れるメリットは大いにあるため、次年度以降、エージェント制度を大学・大学院にも適用させることで受け皿を広げて、留学生の獲得に繋げたい。 	8
--	---	---	---

	<p>●令和4年度正規留学生の在籍見込み 新規入数は入国できた場合の最大値だが、コロナ禍に加えてミャンマーの政治不安情勢を受け、見込みから減少する可能性も十分ありえる。</p> <p>大学・短大 計71名（内、33名新規） <内訳> 大学院・・・計10名（内、7名新規） 学部・・・計1名（内、1名新規） 短大・・・計60名（内、25名新規） ※その他、大学学部研究生3名（内、3名新規）が在籍見込み。</p> <p>・大学は最低100名以上、短期大学部は最低15名以上の日本人学生の海外派遣を毎年度行う（継続）。</p> <p>令和3年度同様、コロナの状況次第では、学生の海外派遣が難しい状況が続く。しかし、コロナ禍でも学生達の海外留学への一定のニーズがあることを想定し、今年度実施し、好評だった各種オンライン留学への案内を引き続き行っていく。また、2022年度JASSO海外留学支援制度（派遣）に提出した園部教員のプログラムが不採択だったものの、追加採択候補となっている。もし当該プログラムが承認された場合、一定の経済基準を満たしている学生であれば、渡航補助を含めると一人当たり40万円以上の支援を受けることでき、これは、コロナ禍での留学を要する高いコストを相殺できる潤沢な資金に相当する。そのため、追加採択が決まった際は、この制度を十分に活用し、オセアニア地域（オーストラリア及びニュージーランド）への学生派遣を推進していく。</p>	<p>●令和4年度正規留学生の在籍数（令和5年3月時点） 水際対策が緩和されてきたことを受け、留学生が順調に入国ができるようになってきたが、大学・大学院は僅かの差で目標には届かなかった。</p> <p>大学・短大 計73名（内、36名新規） <内訳> 大学院・・・計9名（内、7名新規） 学部・・・計1名（内、1名新規） 短大・・・計63名（内、28名新規） ※その他、非正規留学生として、大学学部研究生5名（内、5名新規）と交換留学生1名（内、1名新規）が在籍。 ・大学は最低100名以上、短期大学部は最低15名以上の日本人学生の海外派遣を毎年度行う（継続）。</p> <p>年度途中にJASSOプログラムには追加採択が決定したものの、長引くコロナの影響により学生募集を含めた準備期間が足りないと判断し、残念ながら辞退することになった。しかしながら、昨年10月以降、我が国としても水際対策を大幅に緩和し、また世界各国でも同様の方向に向かっていることから、今後、海外渡航へのハードルが一層下がっていくことが予想される。このような動きもあり、令和5年3月には、コロナ禍で実施ができなかった健康栄養学科横尾ゼミのネパールスタディツアーガが再開され、また子ども学科では私費によるカナダ語学研修に学生1名が参加をする予定である。また、オンライン留学としては、短大部が韓国協定校の建国大学と連携し、約2時間半に及ぶ本学初なる英語のみによるプログラムが行われ、計11名の多文化コースの学生が参加をして双方の交流を深めることができた。</p>	
		当該委員会 達成度集計	25/30
		達成度平均点	83/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、()内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
情報メディア センター (センター長)	<p>1. 情報システム室と連携し、教育情報基盤システムの更なる充実を目指し、「情報メディア教育基本計画」の見直しを行ながら、情報システム室が実施する学内情報ネットワーク等の整備に関する情報交換を積極的に行う。</p> <p>2. 対面授業と遠隔(オンライン)授業のそれぞれのメリットを生かしながら、「質の高い学び」実現のために、学生および教員に対するサポート(オンライン教育システムの構築、実施体制の整備、など)を実施する。</p> <p>3. 「データサイエンス」担当者と連携し、情報セキュリティ及び情報モラルに関する広報活動等を実施する。 学内外の関係者と協力し、社会人に対するリカレント教育としてデータサイエンス(DS)や、業務のデジタル化(DX)に関する公開講座を実施する。</p> <p>[中期目標1-2] 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応</p>	<p>1. 情報システム室と連携し、情報交換を行いながら、教育情報基盤システムの改善・充実に寄与した。今年度は事務部門でのシステム改善が進んだ。教学部門としては、遠隔授業などで利活用するデジタルコンテンツ作成に利用するためのスタジオを佐賀キャンパスに新設し、短期大学部FDにて説明会まで実施することができた。</p> <p>2. COVID-19 の感染状況も一定の改善が見られたため、今年度は対面授業を基本としながら、Teams の課題機能などを活用した「質の高い学び」実現に向けた取り組みがなされた。各学科の運営委員の先生方を中心に学生および教員に対するサポート(オンライン教育システムの構築、実施体制の整備、など)を実施することができた。 学生からのサポート依頼で専門的なノウハウが必要な場合もあり、情報システム室と連携して、従来の演習室常駐職員的役割のスタッフの必要性を感じた。</p> <p>3. 令和3年度から新設された「データサイエンス入門・演習」および「あすなろう」において、情報セキュリティ及び情報モラルに関する教育活動が実践された。 学内外の関係者と協力し、社会人に対するリカレント教育としてデータサイエンス(DS)や、業務のデジタル化(DX)に関する公開講座を3講座(8月、9月、2月)計画し、開催時期の変更があった(9月、2月、2月)が、3講座が実施できた。受講者、延19名</p>	10 8 10
		当該委員会 達成度集計	28/30
		達成度平均点	93/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括と

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
SD委員会 (委員長)	<p>◎SD(Staff Development)をはじめとする大学運営に関する職員の資質・能力向上への取組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SD研修を年2回以上実施する。 ・QSP主催の研修に参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SD研修の実施 令和4年度は、合計4回の研修会実施をした。 第1回（8月4日）「リクルートによる過去5年間の学科別入試分析」及び「西九州大学・短期大学部の将来構想」、第2回（9月20日）「研究マネージメント人材育成、大学の産学官連携業務とリサーチ・アドミニストレーター」、QSP共催、第3回（12月15日）「第5次中期目標・中期計画の策定」、第4回：3月7日「人事評価制度について」を実施した。 	10
		当該委員会 達成度集計	10/10
		達成度平均点	100/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x /10

区分及び 担当	令和4年度検討および実施事項	令和4年度総括	達成度
教職センター (センター長)	<p>◎教職センターの運営 【到達目標】 ・教職課程開設学科より運営委員を選出し、運営会議を定期的に行い、業務の遂行と各学科の連携を図る。</p> <p>◎教育委員会との連携 【到達目標】 ・各市町村教育委員会との教育実習協議会を継続実施する。</p> <p>○教育実習サポート体制の充実 【到達目標】 ・教育実習の向上を目指し、教育実習事前事後指導及び実習期間中の巡回指導を行う。</p> <p>○教員採用試験対策の推進 【到達目標】 ・各学科の教員採用試験に向けての取組を通して、合格者増加へと繋げていく。 ・状況を見て、九州各県教育委員会の教員採用試験説明会を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教職課程開設学科及び子ども学専攻より運営委員を選出し、運営委員会を3回（内2回は教職課程委員会等との合同）開催した。 教育委員会との協定及び教育実習協議会要項に基づき、教職課程開設学科の教員等により、佐賀市ならびに神埼市教育委員会との教育実習協議会が開催され、教育実習の円滑な実施を推進した。 各学部教職課程委員会での審議等に基づき、各学科で教育実習事前事後指導とともに実習期間中の巡回指導が行われた。 教職希望者がいる各学科において教員採用試験に向けての取組指導などが行われた。 教員採用試験説明会の開催について、子ども学科において調整等が行われ、佐賀県及び福岡県の教員採用試験説明会が開催された。従前のとおり、子ども学科の委員から他学科へも参加の呼びかけが行われ、希望する学生が参加した。 	6 6 6 6
		当該委員会 達成度集計	24/40
		達成度平均点	60/100

西九州大学 令和4年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、() 内は責任者 ◎印は優先事項 達成度は x /10

区分及び担当	令和4年度検討 および実施事項	令和4年度総括	達成度
事務局 総務課 (課長)	<p>基準2. 学生 《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</p> <p>【2-5 学修環境の整備】</p> <p>①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理（継続） ・教育目的の達成のために、環境推進委員会等で審議を重ね、より機能的で効果的な教育ができるよう検討及び整備する。</p> <p>③バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性（継続） ・日常のキャンパスライフにおいて、施設・設備による支障が生じないよう引き続き改善を行う。</p> <p>【2-6 学生の意見・要望への対応】</p> <p>③学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用（継続） ・学生支援委員会等と協力し、学生からの意見を汲み上げる仕組みを適切に整備する。 ・学生からの意見を、施設・設備及び学修環境の改善につなげる。</p> <p>基準4. 教員・職員 《教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援》</p> <p>【4-1 教学マネジメントの機能性】</p> <p>③職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性（継続） ・企画委員会と協力し、教学マネジメントの遂行に必要な職員を適切に配置し、役割を明確にする。</p> <p>【4-4 研究支援】</p> <p>③研究活動への資源の配分（継続） ・研究活動の為の外部資金導入について、事務的な支援を行う。</p> <p>基準5 経営・管理と財務 《経営の規律、理事会、管理 運営、財務基盤と収支、会計》</p> <p>【5-4 会計】</p> <p>①会計処理の適正な実施（継続） ・学校法人会計基準及び「学校法人永原学園経理規程」等に則り継続的に行い、適正な実施に努める。 ・予算額と大きくかけ離がある決算額の科目について、補正予算の編成を行う。</p>	<p>学生の支援、学修環境の整備： 神崎キャンパス 5 号館のエレベーターについて、竣工当時からの抜本的な改修が行われておらず、機械部分の不具合がかなりの頻度で発生していたことから大規模改修を行った。また、修理依頼が非常に多い中での都度の対応としていた 5 号館 2 階の研究室 5 室 5 機、3 階の第 2 調理実習室内の空調機 5 機、および室外機 3 機の計 13 機について教育の支障にならない時期について学部と調整を行ながらの取り換えを実施した。</p> <p>施設・設備の利便性向上： 地域連携センターと 4 号館の間の暗所に位置していた学生用掲示板について、中庭に面し学生の目に付きやすい明るい場所への移設再設置を行った。また 4 号館 1 階ランチルームへ自然採光を取り入れるため、その障害となっていた倉庫・ガスボンベ庫の移設再設置を行った。その他、各校舎にての不具合等が発生した際には、即応にて対応した。</p> <p>令和 5 年 3 月 7 日（火）に理事長、学長、副学長、事務局長、教務課長、学生支援課長及び課員 1 人及び各学科 2～3 人ずつの卒業予定者による懇談会が開催された。 学生からの意見・要望について今後情報を共有し、適宜検討することにより施設・設備及び学修環境の改善につなげることが必要。</p> <p>教育関連事項については、関連委員会（→企画委員会）→各学部教授会→学部長会議での審議により意思決定を行っている。各会議には、規定に則り担当職員（部長である教員を含む）あるいは事務局長が委員または事務担当として出席しており、学部長会議には法人本部長も参加して教学マネジメントを遂行している。今後も教学マネジメント機能の強化に向け、検討を継続する。</p> <p>科研費公募についての学内説明会を遠隔（zoom）にて実施し、大学・短大合わせて 188 人の教職員が参加した。デスクネットツにて、外部資金の公募関連情報を提供した。応募書類の記載内容について、事務的確認を行った。科研間接経費にて派遣職員 2 人を配置した。</p> <p>①会計処理の適正な実施（継続） ・学校法人会計基準及び「学校法人永原学園経理規程」等に則り継続的に行い、適正な実施に努めた。 ・令和 4 年度も、令和 3 年度に引き続いた新型コロナウィルスの影響にて、教育研究経費 旅費交通費・実験実習費等で予測した補正予算と決算比較にて減も出たが、全体的には教職員の支出抑制の機運も高まったことにより、事業活動収支計算書 基本金組入前当年度収支差額において 253 百万円のプラスを計上することが出来た。</p>	8 9 8 8 8 10

	<p>②会計監査の体制整備と厳正な実施（継続） ・監査法人による外部監査、監事による監査及び内部監査を通じて、研究費等の不正使用防止や業務の適正かつ効率的な運営を図る。</p>	<p>②外部監査、監事による監査では、不正防止に関する内部統制の整備、運用状況や競争的研究費等の運営管理について、意見交換を行った。</p> <p>③事務DXを推進するための物品等請求・出張旅費システムの構築、老朽化した学務システムのハードウェア更新などを実施した。特に物品等請求・出張旅費請求業務については、令和5年4月から電子承認によるハンコレスなど事務DXに向けた準備を行った。</p>	8 8
事務局 教務課 (課長)	<p>基準2. 学生 『学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』 【2-5 学修環境の整備】 ①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理（継続） ・各キャンパスにおける校地及び校舎の整備に伴う教室等の適切な運営・保守管理</p>	<p>・講義室のAV機器等の不具合について、適宜入れ替えを行った。出欠確認用ICカードリーダー数台に不具合があり、正常機器を運用して対応したが、今後修繕あるいは機器の入れ替えが必要。情報処理室（演習室）が、神崎キャンパスで3室から1室へ、佐賀キャンパスで2室から1室へ変更となったことに伴い、今後の各室の運用・管理等について検討が必要。</p>	8
事務局 学生支援課 (課長)	<p>基準2. 学生 『学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応』 【2-6 学生の意見・要望への対応】 ②コロナ禍の継続に伴い心身に関する健康相談、修学支援新制度における経済的支援など学生生活に関して、学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用 ・健康相談の指導体制充実（UPIテスト実施及び事後指導） ・学内奨学金、JASSO奨学金を活用し、経済的支援を継続 ・学生生活実態調査の実施と課題解決に向</p>	<p>・2022年度は、前期ガイダンスは紙による実施、後期はweb実施で回答率84%となり、多くの学生の状態を学生相談室で確認し、心身面での支援をおこなった。 ・学内・JASSO奨学金に加え、JEES・MUFG緊急支援奨学金で3名採用となる支援ができた。そして、経済的支援として学食利用券と売店共通券（合わせて2580円分）を全学生向けに配布を行い、配布率80%という支援ができた。 ・実態調査の令和4年度分析結果は教授会等で共有し、学科内で課題解決に役立てもらった。</p>	10
		当該委員会 達成度集計	85/100
		達成度平均点	85/100

総合評価

各セクションの評価は以下のとおりである。

委員会等名	評価点	達成度 (%)
企画委員会	59/100	59
F D 委員会	41/60	68
大学院 F D 委員会	16/20	80
大学院研究科	57/70	81
健康栄養学科	131/160	82
社会福祉学科	214/270	79
スポーツ健康福祉学科	106/130	82
リハビリテーション学科	43/50	86
子ども学科	162/180	90
心理カウンセリング学科	153/170	90
看護学科	73/90	81
全学教務委員会	64/90	71
共通教育運営委員会	18/20	90
教職課程委員会	35/50	70
学生支援委員会	99/140	70
入試広報委員会	27/40	68
図書館	38/50	76
リカレント教育・研究推進本部	43/50	86
国際交流センター	25/30	83
情報メディアセンター	28/30	93
S D 委員会	10/10	100
教職センター	24/40	60
事務局	85/100	85
平 均	67/85	80

各セクションを平均した評価点は 67/85 となる。本学自己点検・評価運営委員会は、令和4年度の自己評価を「順調に進んでいる」とする。

なお、達成度が 70%未満にとどまった委員会等には、次年度において未達成事項の改善を行うことを勧告する。